316
387

醫學博士
羽太鋭治著

性の講座

東京 昭和書房 發行

始

特220
82

性の講座

羽太鋭治著

内閣文庫

序

性慾に關する正しき智識を得やうとすることは、現代人の心の底からこみ上げて來る要求である。

それは、從來の宗教道徳は、性慾に對して誤れる解釋をなし、人生否定のものとなり、現代人の生活と離れて了つた結果、現代の人々は、性慾の本來に徹底した人生肯定の宗教、道徳に向つて進まねばならなくなつた爲めである。

予は是等性慾に關する智識を要求する人々の爲めに極めて平易に性慾學の一斑を說くべく本書を著したのである。

著　者

性の講座　目次

第一章　性慾とは何ぞ？……一
一　性慾の意義……一
二　生殖と性慾……五
第二章　性慾生活の文化的發達……八
一　原始時代の性慾生活……八
二　性慾感覺の進化……一三
三　性慾の文化的發達……一七
四　青少年に於ける性的觀察……二一
第三章　性慾機關と其の作用……三〇
一　生殖器の區分……三一
二　男子生殖器……三三
三　男子生殖器と性慾との關係……六五
四　女子生殖器……七〇

五 女子生殖器と性慾との關係……一〇六
六 受胎作用……一〇八
七 內分泌と性慾……一一一
第四章 性慾と戀愛……一一三
一 性慾の通俗的觀察……一一三
二 性慾作用の二分類……一一九
三 中心作用と周圍的快感……一二二
四 性慾の美的發露……一二四
五 二個の戀愛觀……一二八
六 戀愛と生活との關係……一三三
第五章 性慾の發達狀態……一三七
一 收縮作用の現象……一三七
二 接觸作用の現象……一五一
三 兩作用連結の現象……一八一
四 自瀆及び射精の現象……一九一

五 春機發動期の現象……二〇三
六 性的現象の生理學的證明……二〇九
第六章 變態性慾の現象……二一〇
一 變態性慾の種類……二一〇
二 同性間性慾……二一三
三 性的狂祟……二一四
四 半陰陽者……二一五
五 殘忍性色情……二三〇
六 被殘忍性色情……二三一
七 陰部露出症……二三一
八 獸姦及び偶像姦……二三一
九 早熟性慾と晩熟性慾……二三二
第七章 賣淫と結婚……二三九
一 賣淫及び賣淫婦……二三九
二 野合、姦通及び蓄妾……二六四

三　婚姻の起源と沿革……
四　婚姻の準備……
第八章　結論……
一　性慾の二方面……
二　性慾教育の必要……

二六九
二七五
二八三
二八三
二八五

目次（畢）

性の講座

醫學博士（ドクトル メヂチーネ）羽太鋭治著

第一章　性慾とは何ぞ？

一　性慾の意義

本書は極めて通俗的に性慾の一般を説明し、諸君の性的生活をして少しでも善き方面に導きたいのが目的であるから、餘り專門的の記述や、往々誤解され易い實際的の説明などは、嚴にこれを避けたいと思ふ。

そこで先づ性慾の意義と本質とを簡單に説明し、次ぎに男女生殖器の

構造及び其の作用を說き、續いて稍や複雜な性慾作用の分類研究に移る筈である。勿論、性慾科學に關する一般の知識は可成遺漏なく說明するつもりではゐるが、尙進んで高等研究を試みたい讀者は、更らに余の他の著書によられん事を希望する。

偖て、性慾を研究するのに、第一に起る問題は、一體性慾とは何か？といふ事である。其の問題から說明して行く事とする。

性慾とは自然的に且つ生理的に、男女兩性の間に起る處の感情即ち一種の慾求であつて、食慾又は生命を欲する生活慾と等しく、腦中に生ずる正しき心理の一つである。

性慾の目的を達する處の正則なる行爲を名づけて性交といふ。英語の所謂セクスアル・インターコースである。此の行爲は男性の能動的動作、女性の受動的動作によつて兩性を結合せしめるのである。

前に云つた如く、性慾とは兩性の間に存する一種の感情の謂ひである。換言すれば、生物界に於ける兩性（男女——雌雄）の本能である。本能といふ言葉が出たから、茲で一寸其の本能といふ事に就いて說明して置かねばならぬ。

本能とは天賦自然に固有する能力、即ち敎育とか經驗とかによつて得たものでなく、例へば、生れたての赤ん坊が敎へないのに乳を吸ひ、飢ゆる時は泣くが如く、生れながらにして賦有する處の能力である。

知識の如く學んで後得たものは所謂後天性能力であつて、人によつて優劣があるが、先天性能力即ち本能は然うでなく、殆ど何人にも同樣賦有せらるゝものである。

性的本能は運動や感覺其の他の本能の諸力と同じく、心理學上最も劣等なる心力に屬する。劣等心力とは原始的なる心力の謂ひであつて、太

古の祖先から遺傳し來たつたものである。吾人々類の祖先は今日の類人猿に似た獸類から進化したものであつて、運動、感覺其の他の本能の諸力は其の以前から既に固有し、其の心力は人類も動物も異る處がないのである。

故に性的本能を說明するには、勢ひ下等動物に溯つて其の性質を究めなければならないのであるが、其の詳細なる說明は後章に讓つて、玆では單に性的本能は動物と人類との大差なく、吾人の有する性慾は動物も等しくこれを有し、其の性狀も異るものではないといふ事だけ記憶して置けば宜しい。

たゞ人類の性的生活には戀愛なるものがある。卽ち性慾の靈的發露がある。これに就ては別に章を更めて說明する。

二　性殖と生慾

既にして性慾は本能である。これを滿足する時は其の結果として子孫を生ずる。此の子孫を生ずる事卽ち生殖は、性慾の結果には相違ないけれども、初めから子孫を得る目的で性慾を遂げる者は餘り無い。

多くの者は性慾をもつて生殖の爲めであると思惟してゐるが、これは性慾の本性及び本質を無視した上に、本質と結果とを混同してゐるのである。然らば、性慾の本性及び本質とは何か？　といふ疑問が起る。其の答へは極めて簡單である。曰く、自己快樂を滿足せしむるに外ならないと。

これをもつと解り易く說明すれば、玆に生殖を目的とする人がある。此の人既に何人の子を擧げて生殖の目的を達したとする。此の人は其れ

で滿足して爾今性交を行はないであらうか。若し性慾本能が生殖にあり
とすれば、世界の人々は悉く佛國の二兒制の如く二子稀れには三子を有
する上は、夫婦關係は全く肉體を離れて精神的となり、又は單に子孫養
育の義務となつて、性交の必要を見ないやうになるであらう。
併し、事實は全くこれに反して、實際は幾人の子があつても夫婦關係
は肉體を離れる事なく、高齡に及んで最早性慾の全く消滅するまでは、
性交によつて密かに快樂を求めつゝあるは事實の證する處である。佛國
の二兒制の如きも、二子を得た上は性交を禁ずるといふ意味ではなく、
多子多産を防ぐ爲めに避姙法を行ふたのに過ぎないのである。
要するに、性慾は生殖の外に獨立したものであつて、生殖は寧ろ其の
結果に外ならないといふ事が出來る。併し、自然が吾人々類及び動物に
性慾を賦與した目的は、元これ生殖を行はしめんが爲めであつて、性慾

によつて異性を接觸せしめ、繁殖を遂行させようとしたのである。故に、
此の現論から推せば、生殖其のものが本來の目的であつて、性慾は其の
手段に過ぎないと云ふ事も出來る。
斯くの如く、性慾は生殖に關はらず肉體の快樂を得んが爲めに行ふも
のであつて、哲人ショッペンハウエルはこれを「本能の盲動」と名づけ
てゐる。併し、此の盲動は全く無意味ではなく、其の結果として生殖が
遂げられるのである。これを約言すれば、性慾は生殖を遂ぐる爲めに特
に快美なる肉感を與へられたのである。

第二章　性慾生活の文化的發達

一　原始時代の性慾生活

原始時代の人類の性慾生活は動物の其れと毫も異る處が無かつた。性慾行爲は公然行はれ、男女とも裸體の儘歩行して毫も恥づる處は無かつた。斯うした原始的階級のものは今も尙往々野蠻人の間に認める事が出來る。例へば濠洲の土人、ボリネシア人、馬來人等である。

此の時代の男女關係は盡く自由放縱で、其の性交は親に、兄弟、叔姪の間に結ばれ、恰も食慾を滿たすと同樣、隨時隨處に行ふて平然たるものがあつた。前記ボリネシア人の如きが其れで、彼れ等がこれを行ふ場所は屋內ではなく、多く森林中又は藪の中を選び、而も白晝公然これを

行ふのである。或る學者は此の事實をもつて、彼れ等に羞恥心がある爲め人目を避けるのであると云つてゐるが、これは全く羞恥の觀念から來たものではなく、公然では人に妨碍せられる怖れがあり、且つ人前では疑懼の爲め十分の快樂を盡す事が出來ないからである。

共に等しく秘密的行爲には相違ないけれど、敵人の視線を避ける爲めと、羞恥を蔽ふ爲とは其の性質が大に異つてゐるのである。併し、此の敵人の視線を避け、靜肅を保つために隱れた事が、やがて羞恥心の發生を促したものである事は事實らしい。

此の時代には嗅覺、觸覺、聽覺、味覺等が人間の性慾を牽引する重要な官能になつてゐて、視覺の如きは餘り有力なものではなかつた。然るに漸次人類の智能が發達するに從ひ、最も多く視覺を介して性慾を刺戟されるやうになつた。從つて嗅覺、觸覺、聽覺　味覺等の性慾を刺戟す

る範圍が段々に縮少され、視覺の範圍がこれに從つて擴大せられて行つた。此の變化が人類をして漸次動物的屬性から脫却せしめ、異性の容色、擧動、服裝等によつて美感を刺戟し、人間の性慾を直接間接に惹起せしむるやうになつた。

今日の人類に於ても、五官中最も性慾の刺戟を有效ならしむるものは視覺であつて、視覺によつて異性な選擇し性慾の目的に到達しようとする。一體、吾人が觀照して美の感想を享けるのは、多く間接に性慾に滿足を與へ得る條件を具有する事を必要とする。形象美術の視覺に訴ふべき美は勿論、音樂の如きに至るまで人間性慾を刺戟する點に美ありと云つても敢て過言ではないのである。

原始時代若しくは野蠻時代の人類は、其の想像力が凝鈍であつた爲め、單に異性の容色、擧動、服裝等を眼にするのみでは性慾を刺戟する事が

困難であつた。そこで生殖器を露出して、これを異性に示し性慾を刺戟する。これはハヴエロック●エリスが云つた如く、歐洲の中世時代に男子の服裝が容易に局部を露出し得るやうに裁縫せられてゐた事實から見ても想像し得る。

現にメラネシア、ポリネシア諸島では男女とも裸體を以て天然なりとし、これを蔽ふ必要なしとし、腰部すらも蔽はない。稀れに木の葉、布片等の類で型ばかり局部を蔽ふものもあるが、一帶に生殖器を隱すのは却つて恥辱であるとしてゐる。これは氣候が暖く被服を要さない關係からでもあるが、一帶に被服を纏ふ者を以て身體の畸形若しくは醜體を隱すものとし、裸體を以て自然の最美なりと思考してゐるのである。

斯くの如く、メラネシア、ポリネシア人等の間には羞恥心といふものは全く無く、唯性慾のみ異常に發達して　女兒は幼時から一種淫猥なる

舞踏を其の母から教へられる。此の舞踏は男女の性慾及び性交に關する狀態を現はしたものであつて、文明人の眼から見れば淫猥見るに堪へないものであるが、彼れ等には少しも然うした感じはなく、尋常茶飯事として熱心に練習するのである。（今日の舞踏の起源とも見るべきもので、吾人をもつて云はしむれば、斯くの如き起源を有する西洋のダンスなるものを、若き高等女學校の生徒に教ゆるが如きは以ての外である。日本には古來から能樂の仕舞の如き優美にして且つ合理的な舞踊がある　何を苦しんであんなものを教へる必要があらう。）

又、ソサイテ島其の他の群島には、宗教上の一種の講があつて、講員は男女何人を問はず思ふがまゝに性慾を遂ぐるのを目的とし頗る盛んであると云ふ。これなども吾人々類の祖先が行つてゐた風習であると見る事が出來る。

二　性慾感覺の進化

前述の生殖器露出が自然異性の注意力を強く惹く爲めに一種の人工的裝飾を施すやうになつた。英國のナイトアントルウ●スミスが、ダーウキンに致した報告書（ダーウキン著「人類の由來」第十九章）によると、南阿弗利加のホッテントッド人の女子は局部を大きく見せるやうに仕掛けるさうである。又、英人グニエルの著「トボグラレキー●オブ●ギニア」によると、西阿弗利加ジャブー族蠻人の女子も局部に加工する習慣があり、人工によつて陰唇及び陰核を漸次大きくするやうに努力するさうである。

現に原始時代と同一程度の文明にありとされてゐる亞弗利加のリユクノール人は、局部に刺青を施し、若しくは奇怪を極めた布片を纏ふのを

常としてゐる。英國の旅行家マーテルスが彼れ等の一男子に對つて其の理由を問ひ訊した處が、其れは歐洲人が衣服を纏ふのと同一の理由であつて、要するに女子を悦ばさんが爲めであると答へたさうである。何れの人種を問はず、男女共に皆褌裙を纏ふ習慣があるが、あれは生殖器を保護する目的と見るよりは、寧ろ原始時代に生殖器に向つて異性の注意を惹くが爲めに施した遺習と見る方が適切である。これは日本婦人が最も人目を眩惑する處の紅色の蹴出しを纏ふのに徴しても思ひ知るべきである。

併し、如何に生殖器に裝飾を加ふるとも、人智の進歩に起因する審美心の發達に伴ふ嗜好に投合し得るまで變形せしむる事は不可能である。斯くては生殖器が其の官能を營むに當つて支障を生ずる怖れがあるのみならず、生殖器の位置は身體中央部に當る故、異性相遭ふにしても直ちに視力の方向を其の方面に導く事は難く、勉めて顔面を下部に向けなければこれを見る事は出來ない。

故に人智の發達と共に、生殖器によつて異性の注意を惹き、其の性慾を刺戟せんとする工夫漸次廢れて行つて、異性と相對して直ちに其の注意を惹き易い部分即ち胸部、顔面等に裝飾を施すやうになつた。これが衣服の起源であると共に、紅粉を裝ふやうになつた起原である。

日本婦人が盛裝する際に裾模様といふものを着るが、あれなども畢竟其の起源を褌裾と同一にするものであつて、最も人目を惹き易い模様裝飾によつて、男子の注意を生殖器の附近に導き、其れによつて男子の性慾を刺戟しようとしたに起因するのである。

人智の發達は畢竟するに想像力の發達である。故に人智の發達と共に異性の注意を生殖器に惹くに至らずとも、たゞ我が肉身に視力を注がし

むる事によつて、異性の性慾を刺戟し得るやうになつた。

そして身體の最も容易に他の視覺を刺戟し得る部分は顏面から頸部、胸部に至るあたりである。故に野蠻人と雖も第一に身體に施す裝飾は顏面、頭髮、頸筋の邊で、亞米利加インデアンが、盛んに繪具を顏面に塗り、髮を山の如く築き羽毛を簪すが如き、何れも異性の注意を容易に且つ早く惹かんが爲めの手段に外ならないのである。

人は皆一度母の懷に抱かれて乳を哺ふた經驗がある。其の觸感の愉快な事は大人の接觸狀態に於て受ける觸感と類似したものであつて、而も此の哺乳は祖先代々の其の又昔の原人時代から繰り返された經驗であるから、人は男女によらず異性の胸部を見ると、其の部分に接觸して受ける快感を先天的に聯想し、同時に性慾の刺戟を感受するものである。日本婦人が半襟に意匠を凝らし、西洋婦人が頸部及び襟卷に思考を重ね、

男子がネクタイに工夫を凝らすが如き、皆異性の性慾を刺戟しようとする目的に外ならないのである。

洋の東西を問はず野蠻人は必ず文身（刺青）の習慣がある。これは繪具其の他の顏料によつて裝身し、異性の注意を惹く術を知らなかつた時代の裝身術とも見るべきものであつて、最初は最も早く且つ容易に人目を惹く顏面部に施したものである。其れが顏だけでは物足らなくなり、其れに稍や美術心が加はり、遂に全身に文身するやうになつたのである。此の意味から衣服は文身の發達したものであるといふ事が云へる。

三　性慾の文化的發達

妻妾の貸借交換は一種の相對的姦通であるが、此の風習は世界各地に行はれ、歐洲に於ても古昔此の淫風が盛んに行はれた事は歷史の證明す

る處である。

此の時代の女子は一種の動産、賣物であり、賣買、交易、或ひは贈與の對象物であつて、同時に性慾滿足の一道具たるに過ぎなかつた。

古代希臘のソクラテスの如き哲人にして屢々其の妻を他人と交換し、又當時の名門の人士にして此の風習の行はれたのは、希臘の民政が國民共有主義を採り、女子及び小兒を國家の共有とした結果ではあるが、やはり原始時代の遺風であると見る事が出來る。

此の事は現今も尙メラネシア、ポリネシア等の蠻人間には盛んに行はれてゐる。此の種の蠻人の男子は自己の妻妾を他人と貸借交換する事を得るのみならず、場合によつてはこれを賣買し、又擔保とする。そして其の妻妾はこれに對して何等苦情を唱ふる權利なく、絶對に夫の命令を奉ずべき義務がある。故に若し其の妻妾が夫の命令に從はない時は用捨

なく打擲せられ、甚だしきは撲殺せられる。

性慾生活の文化的發達は羞恥心の發現に初まる。卽ち陰部を蔽ひ、性慾的行爲を隱すやうになつたのに起因する。斯うした文明階級の發達は氣候の寒冷に促されたらしい。氣候寒冷の爲め已むなく全身を被はなければならぬやうになつたのである。此の理によつて北方の人種は南方の人種に比して羞恥感情が早く現はれた事を說明し得る。今日野蠻人が熱帶地方に多い事もこれで解るわけである。

又一面に性慾生活の發達上重大な動機をなすものは、女子を動產視する事の非なるを悟つたのに因る。女子を一個の人間と見做し、女子又自身並びに自己の戀愛に對し處分權を有するものである事を自覺するに至つたのに因るのである。

從つて性慾は稍や精神的となり、女子を共通財產とする考へは止み、

性を異にする各々の者は精神的に身體的に優越點を見出し、相互に牽引せられるのを感じ、其處に戀愛なるものが生じた。此の階級の女子は自己の刺戟が唯自己の愛する男子にのみ屬すべきものなるを感じ、其の男子以外の他人に對しては自己を回避しようとする興味が生じた。これが羞恥以外節操卽ち性慾的忠實の起源である。やがて人類は從前の遊牧生活すら去つて土着となるに及び、鄕土、家屋を建設し、同時に家婦の必要が起つた。

早く此の文明に達したものは、東洋人では古代埃及人、イスラエル人、希臘人、西洋人では日耳曼人である。

性慾文明は基督敎によつて強い衝動を受けてゐる。故に基督敎國民は他の一夫多妻的國民殊に回敎徒に對し、精神的に物質的に遙かに優越性を生ずるやうになつた。

四　青少年に於ける性的觀察

性的生活の發達に就ては概略是れを述べたが、以下、少しく青少年に於ける性的觀察に就て、是れを一班的に述べて見よう。

併し、私は青年が春機發動機に際して、性的事情に暗い爲めに陷る變態性慾（例へば同性愛）の如き性的罪惡に就ては、委しく說明するを欲しないが、

（一）自瀆的遂情行爲、これこそ最も廣く青年の間に傳播してゐる性的罪惡である。

（二）發達期に誘發されたる性的罪惡の感染。

此の二つの事實に就ては、聲を大にして說明しなければならない。蓋し此の二つが青少年の間に著しく傳播して、害毒を逞

しうしてゐる事は、實に豫想外であつて、恐怖以上の危險だからである。

ケルンの醫師マイロウスキーといふ人が、自己の悲しむべき經驗に刺戟されて、青少年の性的生活に關する知識を得んが爲めに、曾て敎育を受けた人々の返答や回想錄によつて、非常な勞力を費し、「學校及び家庭に於ける性的生活」なる一書を公けにした。これに依ると、學生の百分の七十一、卽ち三分の二乃至四分の三は自瀆遂情者である。

尙、露西亞の調査によると百分の六十、ミユンヘンの醫師マルキユースの調査によると百分の九十二、ブレスラウの眼科醫コーン敎授の調査によると百分の九十九、ブタペストの敎育家ドイツチエの調査によると百分の九十六・七が盡く自瀆遂情者である。

有名な米國の尿學者ヤング敎授は、米國の青少年は男女兩性共悉く自瀆遂情を行つてゐると云ひ、獨逸のオスカー・ベルグル敎授が同國の少

年に就て調査した處によると百分の百、卽ち其の全部が自瀆遂情者であつたと云ふ。有名な性慾學者ローレデルの調査によると、男女學生の百分の九十、卽ち十分の九は自瀆遂情を行ひ、其の中の約三分の二は其の後の危險を免れてゐるが、三分の一は輕重種々の惡結果を遺してゐるといひ、前記マイロウスキーも、自瀆遂情者の約四分の一、卽ち百分の二十二は惡結果を遺したと云つてゐる。

以上綜合して見る時は、男女學生の約百分の九十は自瀆遂情者である。何と怖るべき現象ではあるまいか。

尙、マイロウスキーの調査によると、十五才は自瀆遂情が性交に轉換する時期であつて、十三才で自瀆を始め、十六才で性交を始めるのは、殆ど普通の狀態で、其の性交を開始する動機は、其の半は誘惑により、他の半は自動的に開始するものだといふ。

同氏が大中小の各都市に於ける、高等學校級の生徒の性的生活に關し、斯う記載してゐる。

『――其の性的生活の狀態は、成人せるものと殆ど異る事なし、大都市學生中には戀人を有せるものあり、泊り込むべき家を有するものあり、怪しげなる酒場、妓樓を訪問するものあり、而して小都會の學生は下女と關係するもの最も多し――』

借問す、これを外國の事と、日本の青年學生諸君は澄ましてゐられるだらうか？　恐らくは耳の痛い人が多い事だらうと思ふ。

マイロウスキーの結論によると、上級生で性交を行ふものは全生徒の百分の二十で、皆花柳病の感染を覺悟しながら賣笑婦と戲れたものだといふ。

プラーグの醫師ヘヒトが同地の中學校卒業生二千七百九名に就て調査

した處によると、其の中の二百九十五名、卽ち百分の八は、既に學校時代に花柳病に感染してゐたと云ひ、其の中の百分の七・七はプラーグで、百分の八・一は地方で感染したものだといふ。然るに、同じ北ベーメンの或る大工業町の職工疾病共濟會の決算表によると、職工の花柳病に罹つたものは百分中の二・三で、前記中學卒業生中の花柳病者に比すれば、三倍半の少數である。此の現象は此頃我が日本にも現はれて、却つて知識階級により多くの患者を見るやうになつた。これは私の貧弱な一診療所の統計が充分に證明して餘りある。

此の比較は軍人との間にも著るしい比例を示してゐる。墺國陸軍省の第六表によると、陸軍部内の花柳病患者は僅かに百分中三・九乃至六・三で、これを平均すれば百分中五を超過しないのに、ベーメンの高等學校生の百分の八は花柳病患者であるとは、何と驚くべき比例ではないか。

ベケツスといふ醫師が、一九〇八年墺國花柳病豫防會の記錄に發表した處によると、花柳病患者の百分の五十は青少年である。

やはり同國の高等學校敎師の調査によると、ウインの生徒中花柳病に罹れる者の百分の六十乃至七十は、皆賣淫婦から感染したものだといふ。

ダンツイヒのショウルプといふ醫師が、西普西亞の諸高等學校に質問狀を發して、花柳病に罹つた生徒の調査を依頼した處、十一に四十八人の患者があつて、其の中の卅九人は淋疾、五人は徽毒、四人は軟性下疳であつたといふ。尙これ等の患者の居住地と數の比例は、ダンツイヒが廿七人、トルンが十二人、コーニツツ、エルビング、グラアデンツが各三人、これを學年別にすれば、卅九人の淋疾患者中、卅人は最上級生、七人は其の次級生で、二人は其の又次級生で、年齢は十七才から十八才まで。徽毒患者の中四名は最上級生で、年齢は十七才乃至十八才。殘りの

一名は其の次級生でなく、もう一級下の十六才の少年であつたといふ。更に、感染の原因を調べて見ると、酒場の女給仕によるもの十一、賣淫婦によるもの八、下女によるもの七、良家の娘及び女中によるもの各々一であつたといふ。

右の統計は甚だ曲を盡してゐるやうではあるが、實は質問を發した數の二分の一しか回答に接してゐないのであるから、決して完全な統計であるとは云へない。實際は此の數よりもずつと多いに違ひない。

デユツセルドルフのカール・シユテルンといふ醫師が、花柳病豫防雜誌に、次ぎのやうに報告してゐる。

『デユツセルドルフ皮膚科病院の日誌によれば、青少年の花柳病は非常に增加し、最近四年半に、此の病院にて診察したる十八才以下の花柳病患者の數は、總べて百九十三名にて、其の中音八名は十四才以下なり』

シユテルンは尙、デユツセルドルフのみにても、十八才以下の患者が五百名はあると云つてゐる。

兎に角、近年少年の花柳病患者が增加した事は事實であつて、十二才乃至十四才の少年の花柳病も、直接　性交から感染したものが多いとは、驚くべきではないか。

これ皆、文明が齎す少年の性的早熟の結果で、フライといふ醫師は、六才乃至七才で性交を結んだ者二人を報告し、ある學校敎師は、十二才及び十三才の少年各一名を性交の現場で捕へたと報告してゐる。斯くの如きは異例であるが、兎に角、此頃の少年少女の早熟なのは爭はれぬ事實で、敎育當事者は勿論、家庭に於ても充分戒心すべき事であると思ふ。

以上、要するに青少年の自瀆行爲、性交行爲は一種の流行の如く、殊に高等學校生徒の百分の約二十乃至三十が既に性交を行ひ、而も其の大

部分は淫賣婦と關係して、安價に童貞を破つて了つたものと聞く時は、これ等の生徒間に花柳病の流行するのは當然の事だと云ふ事が出來る。

個人から云つても、社會、國家から云つても、前途大に爲すべきある諸君青年が、斯くの如き狀態にあるとは、決して自慢にならない事である。

童貞の尊むべきものである事は、私が今茲に喋々するまでもない。結婚以外の性交、殊に安價なる淫賣婦風情によつて、尊むべき童貞を破るが如きは、知識ある青少年の爲すべき業ではない。況んや、堂々たる青年諸君が、自瀆の如き不自然なる性的行爲によつて、自身の心身を毀損するが如きは愚も又極まれりである。

私は斷言する。

「性慾は結婚までこれを抑制する事が出來る」と。

第三章　性慾機關と其の作用

一　生殖器の區分

生殖器は男女によつて、形態及び其の構造を異にしてゐるが、其の性質及び發生は略ぼ同一であつて、これを解剖學上から云へば、兩者何れも

（一）　外生殖器
（二）　内生殖器

の二部に分れ、更に

（一）　性交器
（二）　蕃殖器

の二種となる。

（一）　外生殖器　とは總べて體外に現はれた部分であつて、男子の陰莖及び陰囊、女子の大小陰唇、陰核、膣及びバルトリン氏腺等である。

（二）　内生殖器　とは總べて體内に位するものであつて、男子の睾丸、輸精管、精嚢、攝護腺、コーペル氏腺、女子の卵巢、輸卵管（一に喇叭管）、子宮等である。

（一）　性交器　とは概ね外生殖器に屬するが、部分によつては必ずしも然うでない事がある。何となれば外生殖器にして蕃殖器に屬するものがあり、半ば性交器で半ば蕃殖器であるものがあるからである　前者の例は男子の睾丸及び副睾丸、女子の乳房で、後者の例は男子の攝護腺、コーペル氏腺等である。

（二）　蕃殖器　とは其の名の如く、受胎姙娠を營む男女生殖器の部分を

云ふ。

次ぎに男女生殖器の一致點を述べると、外生殖器では男子の陰莖、尿道、陰嚢と、女子の陰核、小陰唇、大陰唇と一致し、内生殖器では男子の睾丸、副睾丸、攝護腺と、女子の卵巣、副卵巣、子宮と一致してゐる。更らにこれを發生學上から對照すると左の通りになる。

外生殖器	
生殖丘より生ずるもの	男子　女子
生殖襞より生ずるもの	陰莖　陰核
生殖隆起より生ずるもの	尿道　小陰唇
	陰嚢　大陰唇
内生殖器	
胚種腺より生ずるもの	睾丸　卵巣
ウォルフ氏腺より生ずるもの	副睾丸　副卵巣
シュルレル氏腺より生ずるもの	攝護腺　子宮

二　男子生殖器

生殖器の體外に現はれた部分は概ね性交の用を爲すものであるが、中には睾丸及び副睾丸の如く外生殖器であつて蕃殖器に屬するものもあつて、正確に區分する事は甚だ困難である。

故に、生殖器を論ずるには先づこれ等各器官の位置及び系統を明かにする必要がある。左に其の概要を示す。

第一　外生殖器

（一）　陰阜――は恥骨縫際の上部にして、少しく隆起し陰毛を生ず。

（二）　陰莖――は陰阜の下部より突出せる一個の圓杭體にして、中に尿道を貫通す。

（三）陰囊――は陰莖と會陰との間に擴張せる一個の囊狀體にして其の中に睾丸及び副睾丸を含有す。

（四）睾丸――は陰囊の內部に存する一對の腺狀體であつて、精子（精虫）を生ずる用を爲す。元來睾丸は體內に存したるものなれど、陰囊に降下したるものなるが故に眞の外生殖器に非ず。

（五）副睾丸――は陰囊の內部に存する一對の小腺體にして、睾丸と結合し、其の末尾より輸精管出づ。

第二　內生殖器

（一）輸精管――は睾丸と結合したる副睾丸より出でたる一對の管にして、精液を輸送する用をなす。

（二）精囊――は輸精管にて睾丸より輸送されたる精液を蓄積する一對の囊なり。

（三）射精管――は精囊內の精液を尿道に射出する一對の管なり。

（四）攝護腺――は一種の液を分泌する一對の腺狀體にして、此の分泌液は精子の活動を助くる用を爲す。

（五）コーペル氏腺――は一對の腺にして、これより分泌する液は尿道を潤滑ならしむる用を爲す。

一、睾丸

睾丸は陰囊の內底に存する二個一對の白色の腺體器官である。其の官能は精子を生ずるにあるのだから生殖上最も重要なる機關である。

其の形狀は卵圓形で少しく扁く、一個の大きさは、平均長さ七八分、幅五六分であつて、重さは四匁內外である。

睾丸が白色なのは睾丸白膜と稱する結締組織の纖維に包まれてゐるが爲めで、其の外面を被ふものは陰囊莢膜である。白膜の內面にも又一層

の膜がある。これは睾丸脈絡膜と稱するものであつて血管に富み、睾丸中隔と連絡する。睾丸の營養を司るものは此の白膜と莢膜とである。

睾丸を解剖して見ると、皮質と實質とからなる事が解る。皮質は卽ち白膜と脈絡膜とで、實質は更らに次ぎの三部から成る。

（一）ハイモル氏體

（二）睾丸中隔

（三）睾丸小葉

（一）ハイモル氏體　は睾丸の上方から睾丸内に突出した肥厚部であつて、其の中に網狀の小纖維束がある。これは睾丸網又はハイモル氏精管網と稱するものである。

（二）睾丸中隔　はハイモル氏體から分出した若干の組織であつて放線狀に排列する。睾丸の實質は此の組織によつて同數の囊に分たれる。

囊の形は尖拉狀で其の中に更に無數の小房を含有する。丁度蜜柑のやうである。此の小房が卽ち睾丸小葉である。

（三）睾丸小葉　は睾丸中隔によつて白膜とハイモル氏體との間に充實した小房であつて、各小房内に又無數の小管を含んでゐる。これを精細管といふ。

此の精細管は腎臟の細尿管の如く、幾回も轉折迂回した細管であつて、其の經過に從ひ、次ぎの區別がある。

（一）彎曲細管

（二）睾丸網

（三）直走細管

（一）彎曲細管　は精細管の迂回した部分であつて、脈絡膜の直下から起り、互ひに吻合して網狀となり、其れから數多の小管に分岐して

ハイモル氏體に向つてゐる。

(二) 睾丸網　は彎曲細管がハイモル氏體中に於て網狀を爲せるものであつて、これから派出するものが直走細管である。

(三) 直走細管　は睾丸網から出た細管であつて、ハイモル氏體の近傍に於て直走するが故に此の名がある。

直走細管は次第に大きくなり、副睾丸を通過する。これが輸精管の始まりである。

既に述べた如く、睾丸は陰囊内に存在するが、夫は腹腔内に存在したものであつて、これには數多の證據がある。左に其の一班を示す。

(一) 胎兒の時には睾丸は脊柱の兩側に位し、腹膜に包まれて、其の一部は陰囊に突出してゐるものである。此の突出部は腹膜鞘狀突起と稱するものであつて、胎兒の發育するに從ひ收縮して睾丸を下方へ牽引す

るにより漸く下降して、睾丸は遂に陰囊内に達するのである。

(二) 睾丸繫留といふ障礙がある。睾丸が陰囊内に下降しないのである。これは先天的障礙によるものであつて、これ又睾丸が元腹腔内にあつた事を證明するものである。

(三) 獸類鳥類の睾丸を見ても解る。鳥類の睾丸は凡て腹腔に包まれてゐる。獸類でも陰囊を有するものは猿猴類、食肉類、反芻類に過ぎない。故に睾丸の下降は進化を意味するものであつて、陰囊を有さないのは原始的である。此の理由から胎兒の睾丸は原始的の狀態を現はすものであると云ふ事が出來る。

睾丸の官能は精子を生ずることは前に述べた。此の精子を生ずる場所は精細管の内面にある。

故に若し過まつて睾丸を毀損し、又は疾患に罹つて其の官能を妨げる

と、睾丸はあつても其の用を爲さなくなる。斯くの如きものを生殖不能といふ。先天的に睾丸の不完全なものも亦これと同樣の運命を免れない。

睾丸の異常には種々ある。先づ

（一）缺亡

（二）腹腔其の他の部分に於ける繫留

（三）矮小若しくは萎縮

（四）過大

（五）過剩

等で、先天的なものと後天的なものとある。

（一）睾丸缺亡　これは睾丸を具有しないもので、睾丸の異常中最も重大なものである。これには先天性と後天性とがあつて、先天性に屬するものは次ぎの原因から來る。

一　胎生の際胚種腺の障礙によつて消失したること。

二　睾丸の發育完全ならざること、此の場合には痕跡を存すること が多い。

併し、先天的に全く睾丸の存在しないのは極めて稀れであつて、睾丸繫留に於て見るが如く、從來無睾丸と信せられたものが、後に至つて腹腔又は其の他の部分に繫留されてゐることを發見することがある。

後天性の無睾丸は疾患の爲めに睾丸を抉出し、又は外傷によつてこれを失ひ、或ひは潰瘍したものであつて、其の疾患の主なるものは睾丸腫瘍、淋毒性又は結核性の睾丸炎及び副睾丸炎等である。

睾丸の先天的に缺亡せるものは、副睾丸及び輸精管も同時に消滅するが、時としては兩者ともに存在する事がある。或ひは其の一方のみ存在する事がある。何にしても睾丸缺亡は性慾を減じ、且つ生殖不能を來た

すものである。

（二）睾丸の腹腔其の他の部分に於ける繫留　本症は睾丸の位置の異常なものであつて、原因は睾丸が腹腔内から陰嚢中に降下しないのである。これを睾丸繫留といふ。

故に睾丸繫留は往々睾丸缺亡と見誤れるが、此の種の者は通常の性慾を有し、且つ生殖力を有する場合には容易に此の二者を見分ける事が出來る。眞の無睾丸は決して性慾及び生殖力を有さないものである。

睾丸の他部繫留は其の位置によつて次ぎの三種に分つ事が出來る。

（イ）腹腔繫留

（ロ）鼠蹊繫留

（ハ）會陰繫留

其の繫留は一個の場合もあり二個の場合もある。又一個にも右側のも

のと左側のものとある。統計によると、左側のもの最も多く、右側繫留はこれに次ぎ、左右兩側のものは極めて稀れである。

睾丸の鼠蹊又は會陰に繫留してゐるものは刺戟を受けて疾患に罹り易い。腹腔繫留も勿論疾病に罹る事は正常な者より多い。何れにしても速かに醫療を加へる事が必要である。

（三）睾丸の矮小若しくは萎縮　睾丸矮小とは尋常よりも睾丸が矮小なものであつて、萎縮とは發育不完全なものを云ふ。先天的に來るものもあるが、多くは後天的で其の原因は疾病若しくは中毒である。

疾病の主なるものは睾丸及び副睾丸の炎症、近隣器官から及ぼす壓迫、精系神經の斷絶等で、中毒より來たるもの沃度中毒、鉛中毒、酒精中毒等で、榮養不良も原因の一である。又房事過度、手淫妄行からも來る。

（四）睾丸過大　これは睾丸の異常に大きいものであつて。先天性

と後天性とある。先天性で他に異常のないものは生殖に妨げないけれども、病的なものは往々これを妨げられる事がある。陰嚢水腫、陰嚢ヘルニア等に罹ると睾丸過大を起す事が多い。

（五）睾丸過剰　とは普通より多くの睾丸を有するものであつて、其の數三個の場合もあり、或ひは四個の場合もある。併し多くは副睾丸の特異な發達によつて剰余の觀を見たるものが多い。

二、陰嚢

陰嚢は睾丸、副睾丸及び輸精管の一部を包んだ嚢狀體であつて、陰莖の根部と會陰との間にある。其の外皮は皮膚と同質であるが、粘膜性で脂肪腺に富み、且つ皺襞が多く柔かである。成長すると暗褐色を呈し、疎毛を生ずる。

陰嚢の中央に存する縫目の如き線は陰嚢縫腺と稱するものであつて、これによつて陰嚢を縦てに兩分するのである。

陰嚢を剖開すると、明かに三層の膜から成つてゐる事が解る。即ち外膜、中膜、内膜であつて、其の名稱は次ぎの通りである。

（一）陰嚢外膜
（二）陰嚢筋膜
（三）陰嚢莢膜

（一）陰嚢外膜　は脂肪腺及皺襞に富んでゐる事は前に述べた通りである。

（二）陰嚢筋膜　は筋質であつて淡紅色を呈し、左右の睾丸を包んで其の間に一個の縦膜を有す。此の膜は陰嚢縫腺と一致するものであつて陰嚢中隔といふ。

（三）陰嚢莢膜　は陰嚢筋膜に掩ばれ薄膜であつて、睾丸白膜の外面に襯附してゐる。此の莢膜は腹膜の一部であつて、元睾丸を包んでゐ

た腹膜が下降したものである。

右の外、睾丸の下端から起つて陰嚢筋膜に達してゐる一種の筋肉がある。これは擧睾筋と云つて睾丸を陰嚢内に釣つて置く用をなすのである。

陰嚢の收縮は陰嚢筋膜及び提睾筋の收縮によるものであつて、性交の際陰嚢が收縮すると、睾丸を緊壓するが故に射精力を強くし、從つて快感を大ならしむるのである。

陰嚢は體外にあつて睾丸、副睾丸を擁護し、其の收縮によつて間接に性交を助ける用をなすのである。

陰嚢の異常として知られたものには次ぎの三種がある。

（一）陰嚢缺損

（二）陰莖と癒着

（三）左右不同

三、攝護腺

攝護腺は膀胱の尖端から尿道に移らうとする處を圍んだ腺體で、直腸と恥骨縫際との間にある。其の上部は扁く、下部は圓く稍尖つてゐる故に、全體の形は恰も栗の實を倒まにしたやうである。

攝護腺の外部は二種の筋膜及び纖維膜より成り、內部は肉樣の腺質であつて、數千條の腺管から成る。これ等の腺管は漸次集合して數條の排泄管となり、遂に一條の攝護腺管となり、尿道に開口するのである。故に淋毒が其の開口部から侵入して攝護腺炎となる事が多い。

攝護腺から分泌する液は透明の粘液であつて、稀薄な乳汁の如く、一種の臭氣がある。化學的には亞留加里反應を呈し、精子の運動を活潑にし、且つ性交の際にぱ射精を助け、又利尿に便ずる。

故に攝護腺に疾患を生ずると、射精を害し不姙となり、又放尿を妨げ

て泌尿器病を誘發する。

四、陰莖

陰莖は性交器の重要なるものであつて、恥骨縫際の下部から前方に突出し、長さは人によつて一定しないが、本邦人に就て測定した處によると、根部より上端まで平均三寸七分三厘餘であつて、周圍は二寸八分に達するといふ。

田中博士が本邦人の男子二百四十二名に就て測定した結果によると、

陰莖の長さ　二寸八分四四六
陰莖の周圍　二寸七分二九一
龜頭の長さ　八分九厘〇一
龜頭の周圍　二寸八分二五一

である。

陰莖の形狀は圓筒狀であるが、併し委しくこれを見ると背面は圓く、

腹部はやゝ狹い。これを左の二部に區別し得る。

（一）陰頭
（二）陰體

（一）陰頭は所謂龜頭であつて、全體は極めて薄き粘膜にて包まれ、感覺最も鋭敏である。其の上端に尿道口があつて縱に開口し、下端は圓く其の緣は隆起してゐる。此の緣は龜頭冠と稱する部分であつて、其の下面に包皮繫帶と稱する薄い繫帶がある。

此の繫帶は陰莖の上皮、卽ち包皮に緊着せしむる用を爲すものであつて、兼ねて又其の自在に反轉する事の無からしむる用を爲す。

（二）陰體は龜頭を除いた陰莖の全體であつて、これを被ふ膜を包皮といふ、包皮は緩い結組織で陰體を包み、前端は皺襞狀をなして內外の二層に分かれる。

内皮は軟弱なる粘膜で龜頭に接續し、外皮は厚く且つ廣く龜頭を被包してゐるが、これを固着する事はない。

包皮は幼時に於ては全く龜頭を包んでゐるが、成長するに從ひ反轉して自ら龜頭を露出するに至る。併し、包皮の前口の狹小なものは成長の後も尙龜頭を包んで小兒の如き形狀を存してゐるものがある。かゝる者は花柳病に感染し易く、且つ生殖機能障害を來たすものであるから醫療を乞はねばならぬ。

體の根部卽ち陰莖の身體に附着してゐる處を脚と名づけ、外部から見る事は出來ないが觸知する事が出來る。茲に數種の筋肉があつて陰莖を勃起せしむる用を爲す。

陰莖の內部は多孔質の組織であつて、空洞體と海綿體との二部から成る。空洞體は陰莖の背面を、海綿體は腹面を形成せる部分であつて、海

面體中に尿道が開通してゐる。

陰莖が勃起せるのは、これ等の空竇中に鬱血を來たすに因るものであつて、此の部分を勃起組織と名づける。

血液は精動脈から這入つて來るのであるが、其の血管が空竇と連絡してゐるが故に、若し性慾を感じ、或ひは刺戟を生殖器に加ふる時は、血管が開いて多量の血液を空竇中に送り、膨脹、勃起を起すに至るのである。

陰莖の勃起は性交の目的を遂行する上に缺く可らざる必要條件で、此の際生殖に必要なる精液は射精管の作用によつて尿道を出で、女子の生殖器中に灌ぐのである。

陰莖の異常卽ち畸形には種々ある。其の主なるものを列記すれば左の通りである。

（一）陰莖の缺損せるもの
（二）陰莖の矮小なるもの
（三）陰莖の强直なるもの
（四）陰莖の他の部分と癒着せるもの
（五）包皮の龜頭を包めるもの
（六）包皮繋帶の短縮せるもの
（七）陰莖の變位せるもの
（八）尿道の異常に開けるもの

（一）陰莖缺損　とは先天的に、或ひは後天的に陰莖の缺如せるものであつて、其の先天的のものには陰莖と陰囊と共に具はらざるものと、陰囊は普通であつて陰莖のみ缺如してゐるものとある。此の種のもの尿道は多く會陰又は肛門部に開くのを常とする。

後天的に屬するものは外傷によつてこれを失ひ、或ひは疾病の爲めに切斷したものであつて、其の主なる疾病は

（イ）陰莖壞疽
（ロ）陰莖下疳（硬性と軟性との二種あり）
（ハ）陰莖結核
（ニ）陰莖象皮腫
（ホ）陰莖癌腫

等である。

（二）陰莖矮小　とは陰莖の發育が不充分で極めて矮小なるものを云ふ。其の甚だしきは陰囊の皮下に埋沒して缺損せるが如く見ゆるのがある。やゝ發育して疣狀又は小指位のものも少くない。

陰莖矮小の原因は、先天的には或る障礙の爲めに發育が途中で停止す

るのであつて、勃起力を有し、而も睾丸其の他の部分に異常の無いものは稀れに性交を行ひ、生殖を營む事が出來る。後天的に來たる陰莖矮小は次ぎの如き原因に因る。

（イ）睾丸の打撲より來たること

（ロ）睾丸の痲痺より來たること

（ハ）疾病より來たること

（ニ）手淫妄行より來たること

（ホ）房事過度より來たること

（ヘ）性慾の禁斷より來たること

（三）陰莖勃起　は又の名を陰莖勃起症ともいひ、性交時に於ける如く勃起したまゝ縮小しないものを云ふ。

原因は脊髓炎又は脊髓癆の爲めに、勃起中樞に障礙を生じたのに因る

ものであつて、カンタリス、燐酸臭素加兒の中毒又は手淫から起る事も稀れでない。

本症の中には陰莖の感覺が過敏になつて、手、衣服等が觸れても直ちに射精して非常に衰弱するものがある。

（四）陰莖癒着　とは陰莖が他の部分と癒着する疾患であつて、性交を不能ならしむるのみならず、放尿を妨げ其の都度不快を與ふるものである。

原因は先天的に出づるもの多く、陰囊の癒着せるものと、腹部に癒着せるものとがある。併し、癒着の部分は皮膚に過ぎなのであるから、小兒期に切斷すれば容易に治癒し得る。

（五）包莖　に就ては前にも一寸說明して置いた通り、包皮の前口が狹隘な爲め、反轉して龜頭を露出する事が出來ないものを云ふ。

（六）　包皮繫帶の短縮　は龜頭が下面に曲つて、恰も陰嚢と癒着せるが如き觀を呈し、性交を妨げるのみならず、勃起する時は繫帶破裂し、出血疼痛を起すものである。

（七）　陰莖變位　は陰莖の發育不同により、又は他の障礙の爲めに屈曲したものであつて、其の變位には左の數種がある。

（イ）　陰莖偏向症

（ロ）　陰莖彎曲症

（ハ）　陰莖捻轉症

偏向症は陰莖が右方又は左方に屈曲せるもの、彎曲症の甚だしいものは、陰嚢と癒着せるが如き狀を呈す。捻轉症の強いものは包皮繫帶が外方に向つてゐるのがある。

（八）　尿道の異常破裂　には左の二種がある。

（イ）　尿道背面破裂

（ロ）　尿道上面破裂

背面破裂は尿道口が陰莖の背面に開いてゐるものであつて、尿道口の恥骨縫際線下に開いてゐるものと、陰莖の背面中央に開いてゐるものと、龜頭の背面に開いてゐるものとある。性交には妨げないが、時として陰萎の原因となる。

上面破裂は尿道口が前者と反對に陰莖の下面に開いてゐるものであつて、これにも又包皮繫帶に沿ふて龜頭溝に開いてゐるものと、陰莖の下面中央に開いてゐるものと、會陰に開いてゐるものとがある。

五、輸精管、精嚢、射精管及びコーペル氏腺

（一）　輸精管　は强厚扁圓の膜管で、陰嚢を上り陰莖根兩側の皮の下を通り、血管神經と共に鼠蹊管に入り、内鼠蹊管に至り、茲で下方に彎曲し、腹中

に入り、膀胱の上から其の側面を下つて遂に尿道攝護線部に開く。其の作用は精液を輸送する任務を司る。

（二）精嚢　は輸精管に連續し、膀胱底の兩側、膀胱と直腸との間に存在する細長い膜嚢で、上方は扁平となり、下方は隆起し、其の構造は殆ど輸精管と同じである。精嚢の作用は睾丸から送られた精液を輸精管を通じて玆に入らしめ、必用の時まで貯藏する處であつて、恰も水道の貯水地の如きものである。長さ一寸三分三厘乃至一寸六分五厘、幅五分乃至七分である。

（三）射精管　は精嚢の尖端が狹小となり、攝護腺を穿通し尿道攝護腺部で精阜の兩側に開口する。これが射精管である。其の作用は輸精管及び精嚢中に存する分泌物を尿道に輸出するのである。

（四）コーペル氏腺　は陰莖の基根部所謂尿道球部と稱する部分の

下方、尿道三角靭帶の兩葉間に存在する暗黄赤色、豌豆大の葡萄狀腺である。其の作用は稍や鹹性を帶びた透明粘液樣液卽ちコーペル氏腺液を分泌し、尿道を潤滑ならしむるにある。生殖器が亢奮して陰莖が勃起したる時は分泌を增加するものである。

六、精液と精子

精液は濃厚粘着性白色の液で、一種固有の臭氣を有する。其の成分は、

（イ）上皮細胞
（ロ）顆粒
（ハ）脂肪滴
（ニ）精子

等を含有する。其の化學的成分は、百分中

水分　九〇

粘液質　六
ソジウム　一
燐酸石灰　三

其の他攝護腺液、コーペル氏腺液等を若干含有する。味は少しく鹹味を感じ、亞爾加兒性反應を呈する。

精液は常に精嚢内に貯溜せられてゐるが、性交又は手淫、夢精、遺精等によつて體外に排泄せられる。但し攝護腺液、コーペル氏腺液の如きは射出の途中混合せられたものであるから、精嚢に貯溜せられた精液と體外に射出せられた精液とは大なる差異がある。一回の排泄量は約五瓦内外である。

精子は曲細精管で製造され、直細精管以下によつて輸送されるものである。精子は云ふまでもなく精液中の主成分で、子孫はこれに由つて發

生し繁殖するのである。

其の形狀は恰も蝌蚪の如く、頭、體、尾の三部に區別せられる。併しその長さは僅かに〇、〇五密迷（一毛六弗六六）で、顯微鏡の力を借りなければ、到底肉眼では見られない。

顯微鏡でこれを見ると、頗る活潑に蛇行運動をなしつゝ、突如として前進するかと見れば、又突如として休止する。その運動は尾の作用による　尙ほ運動は攝護腺液に逢ふと愈々活潑となる。子宮内に於ては一週間位は其の運動を持續する。これ酸性の攝護腺液が精子に生活力と運動力とを附與するからである。

精子は精液中に存在する數は殆ど幾千なるかを知る能はざる程ゐる。併し　兩側の睾丸炎等に罹つたものは精子を見ないやうになる。

七、以上の總括的說明

以上甚だ煩雜な說明の仕方をしたから、茲に總括的に說明を繰り返し、更らに男子生殖器と性慾との關係を明かにして置く。

男子の生殖器官中最も吾人の眼につき易いものは陰莖と陰囊とであつて、陰囊中には二個の卵圓體即ち睾丸がある。各睾丸は結締組織から成る處の睾丸白膜に被包され、その一部は實質に浸入して縱隔をなす。此の縱隔によつて區分された小葉は、種々なる多樣に迂回した細精管から成り、細精管は互ひに吻合して附近の小葉に連絡する。此の細精管の壁は精子を準備する處である。

偖て、細精管は約十二本の輸出管に集合して睾丸を出で、睾丸の後上部にある副睾丸を形成する。這處で又種々に迂回して副睾丸を出で、遂に輸精管となつて睾丸の分泌物を輸出する用を爲す。輸精管は鼠蹊管を

通じて腹腔に入り陰莖に至る。

陰莖のうち吾人の最も眼につき易いのは、陰囊の前方に垂れ下つた部分である。これは陰莖の前部であつて、後部は陰囊及び會陰の皮膚に被はれて見へない。陰莖の最前端を龜頭と云つて、包皮によつて被包されてゐる。併し、成人すれば自然にその包皮は反轉して龜頭を露出する。龜頭の前端に尿道口がある。此の尿道は陰莖の全部を貫通して膀胱に口を開き排尿の用を爲す。

陰莖の主要部は三種の海綿體であつて、或る事情の血液が鬱積する。その際陰莖は著るしくその大きさ、長さ、硬さを增す。これを勃起といふ。勃起は性交に缺く可らざる必要條件である。

尿道の最後端は攝護腺に包圍せられてゐる。攝護腺は排泄管によつて尿道に開口するものである。攝護腺の後部である膀胱底に左右二個の精

嚢がある。これは輸精管と共に射精管に連絡する一の排泄管を有する。此の排泄管は尿道の後部に開口し、睾丸で準備せられた物質を外部に輸出する用をなす。尿道の後部にコーペル氏腺があつて、其の排泄管は同じく尿道に開口する。其の他の管は皆精嚢及び輸精管の壁及び尿道壁に開口する。(後者はリットレッシエム氏腺と云ふ。)

前述の如く睾丸の中では繁殖に必要な分泌物が準備せられ、性交、手淫或ひは夢精、遺精等によつて體外に射出せられる。此の睾丸分泌物は粘液性の液體で、顯微鏡で見ると無數の精子を發見し得る。

此の精子は性交によつて女性の生殖器中に這入ると、男性の芽細胞となつて女性の卵細胞と融合し、受胎した卵を形成する。(受胎作用に就ては後に説明する。)精子は迂廻した細精管の壁で生ずるものであるが、少年時代には其の種類極めて單純で、性的既熟の後に數種の細胞が發生するのである。其の中の一種の精液細胞は性的既熟と共に增加し、種々の變化、階梯を經て精子を形成するのである。先づこれ位に記憶して置けば宜しい。

三　男子生殖器と性慾との關係

勃起は前述の如く强度の鬱血によるものであるが、然らば如何にして此の鬱血作用が生ずるかと云ふに、これは勃起中樞の刺戟によつて生ずるもので、最近までは脊髓の下部を其の中樞と見做してゐたが、最近に至つてシユルレルといふ學者が、骨盤の交感網が其の中樞である事を發見した。此の中樞の刺戟が陰莖の鬱血を來たし、次いで勃起を起さしめるのである。中樞を刺戟するのに二樣の方法がある。

男子が女子を見る時、腦から脊髓を通過して、勃起中樞の方に或る刺

載が傳操して、陰莖を勃起せしむるのは即ち心理作用による勃起である。
又記憶心像中に心理的刺戟の生ずる事もある。斯うした時は女子を見た
時と同樣交感的婦人に對する記憶が一種の勃起を起さしめる。淫猥な談
話を聞いた時も同樣である。
變態性慾（に就ては後で說明するが）の際は同じく變態的なる觀念が
同樣の作用を起さしめる。同性愛的勃起は其の男性を見るか、或ひは其
れを想像する事によつて生ずる。狂祟症（フエテイシスムス）は其の物
品例へば衣服狂祟症は女性の衣服を見、これを思ふ事によつて勃起する
のである。
彼の自瀆（手淫）實行者が龜頭及び其の他の部分を刺戟し勃起を起す
のは筋肉の收縮作用によるものである。斯くの如き場合は、刺戟が知覺
神經を通じて刺戟中樞に傳播され、其れによつて欝血及び勃起に必要な

中樞の刺戟が生ずるのである。肉體的刺戟は又陰莖及び尿道の炎症の如
き病理作用によつて起る事もある。
其の他膀胱の充實の如き、非病理的作用も同樣の結果を生せしめる。
彼の精囊及び細精管の充實した場合も同樣である。又生殖腺の成長作用
も同樣の作用を起さしめる。斯くの如き內的刺戟は永心神經を通過し、
內的刺戟を感じないで勃起中樞を刺戟するものである。
上述の如く、勃起を起さしむる刺戟を、

（一）心理作用

（二）筋肉の收縮作用

の二種に區別するけれども、實際は大抵兩者が連結して起るものであつ
て、性的既熟の男子は精子の蓄積が勃起中樞を刺戟すると同時に、愉快
なる觀念が生じ、更に又勃起中樞を刺戟するものである。（茲で生殖腺

及び大腦下垂體、甲狀腺、松菓腺等の內分泌作用を說明しなければならないのであるが、敘述を煩雜ならしむる怖れがあるから、其れは別に項を改めて說明する。）

勃起は又性交の際普通精液の射出を伴なふものである。是れは脊髓の下部に特種の中樞あるものとせられてゐたが、最近に至つて交感骨盤網にある中樞の作用なる事を說くものもある。

併し、此の刺戟は勃起を刺戟するよりも、更らに强い刺戟であるのが普通である。故に精液を射出せずとも勃起を生ずる場合がある。併し勃起せずして精液を射出する場合は殆どない。假に若し然うした場合があるとすれば其れは正しく病的狀態——例へば性交不能の如き——にある時で、精液射出の中樞は尙刺戟し得るも、勃起中樞が既に疲勞し盡してゐるのである。蓋し勃起中樞の刺戟が血管神經に波及して陰莖を鬱血せ

しめ、精液射出中樞の刺戟によつて或る筋肉の運動神經を亢奮せしむるが故である。

斯くの如くして、其の筋肉は收縮によつて集中した精液を射出するのである。勿論其の收縮は調節的で、其の調節的收縮は精液射出中樞の刺戟によつて起されるのである。此の精液射出の活動は數滴の精液射出と共に休止するものであつて、既に早く性的亢奮の始めに起る事がある。これを快美外尿道漏といふ。

快美外尿道漏は精液射出筋が活動せずして精液を射出するのである。以前は攝護腺の分泌によるものとせられてゐたが、フユルブリンゲルは此の說を破壞して、リットル氏腺及びコーペル氏腺より射出せらるゝものである事を證明した。

性的亢奮は休止するまで快美感覺を伴ふものである。これには種々の

時期がある。

（一）勃起

（二）同一程度の快美感覺

（三）射出と筋肉調節の結合せる快感

此の三時期を經過すると、最後に退縮を來たすものである。そして快感の消滅と共に性慾も又消滅して、一種安心の感情を生じ、其の際疲勞を感ずるものである。

四　女子生殖器

外生殖器卽ち外陰部に屬するものは陰阜、大陰唇、小陰唇、前庭、陰核、膣、バルトリン氏腺等で、內生殖器卽ち內陰部に屬するものは子宮、輸卵管（喇叭管）、卵巢、副卵巢等である。

これ等の器官は生殖器として何れも必要なものであるが、就中特に重大なる關係と任務とを有するものは卵巢である。卵巢は男子の睾丸が男子生殖器を代表してゐる如く、女子の生殖器を代表してゐるものである。

女子生殖器も生理學上性交器と蕃殖器とに分れ、性交器は外部に、蕃殖器は內部に位する事は前に說明した通りである。併し、此の區別によると、乳房は外生殖器でありながら、而も蕃殖器に屬するものであり、膣の如き性交器でありながら、或る場合には蕃殖器の用を爲す等の事があつて、判然と區格する事の出來ないのは男子生殖器と同樣である。

以上、生殖器の各部の概要を記せば左の如くなる。

第一　外生殖器

（一）陰阜——は外生殖器の最上部にして、陰毛を生じ、其の隆起の度は男子よりも著し。

(二) 大陰唇——は陰阜の下方に位する一對の厚き皺襞にして、外面に粗毛を生ず。

(三) 小陰唇——は大陰唇の内側に位する一對の薄き皺襞にして、其の間に開ける孔は卽ち膣口なり。

(四) 前庭——は膣口の上部にして、左右の小陰唇の間に位する部分なり。

(五) 陰核——は前庭の上部に位する一個の小突起にして、知覺鋭敏なり。

(六) 膣——は前に云へる如く、小陰唇の間の裂孔にして、前方は小陰唇に開き、後方は子宮に接せり。其の間は管狀をなして性交の用を爲し、又分娩の際胎兒の産道となるものとす。

(七) バルトリン氏腺——は膣口の上部に位する一對の腺なり。

第二 內生殖器

(一) 子宮——は一個の囊狀體にして、卵子の發育を司る部分なり。

(二) 輸卵管——は子宮より卵巢に達する一對の管にして、卵子を子宮に送る用を爲す。

(三) 卵巢——は輸卵管の外端に位する一對の腺體にして、卵子を生ずる用を爲す。

一、卵巢

卵巢は骨盤の內側に存する一對の腺體であつて、外面は凹凸多き囊狀をなし、子宮底に接したる輸卵管の外端に面して、廣靭帶の皺襞に包まれてゐる。

卵巢の內端は卵巢靭帶によつて子宮の後部に連なり、外端は剪采によつて輸卵管に接し、恰も兩端の紐で子宮と輸卵管とに結びつけたものゝやうである。

卵巢の官能は男子の睾丸と同じく女性の生殖素即ち卵子を生ずるにある。卵巢が卵子を生ずる時期は春機發動期から月經閉止期の間であつて、此の期以外には卵子は生じないものである。

卵子は定期に發育するものである。月經期から凡そ三週間以前には卵巢内のグラーフ氏胞は悉く微小であるが、凡そ一週間を經過すると、其の中の一個は稍や大にして卵巢の表面に突出するに至る。爾來漸く成長して月經期に至れば小粒狀となり、破裂すべき徴候を呈し、遂に破裂して卵子を裂口より逸出するに至る。

卵巢には缺損若しくは萎縮等の異常がある。先天性には全く發育しないものがあり、後天性には疾患より來たり、又外科手術によつて失つたものがある。

これ等の異常が若し幸ひにして卵巢の一側に止まるときは尙は生殖力

を有するが、兩側に及んだ時は其の官能全く廢絶して姙娠する事は出來ない。

二、輸卵管（喇叭管）

輸卵管は子宮底の兩側から卵巢に亘つて兩者を結合する一對の管である。其の子宮に接する部分は細く、其の口も狹小であるが、外方に至るに從ひ漸々に太くなり、其の卵巢に面せる部分は廣く盡の如き狀を爲す。これを盡膜と云ふ。其の周圍には提狀の突起がある。これを剪と名づける。其の中の一片の特に長く卵巢に連れるものを卵巢剪采と云ふ。

輸卵管を一名喇叭管といふのは、其の外端卽ち剪采が恰も喇叭の如く擴がつてゐるからである。

輸卵管の長さは普通十仙米であつて、其の周圍は次ぎの三層から成る。

（一）外層（漿液膜）

（二）中層（筋膜）

（三）內層（粘膜）

粘膜の上皮に顫毛がある。此の顫毛は輸卵層の外方から子宮に向つて絶えず其方の向を振動するのみならず、管自身も又波動して外方より內方に收縮するが故に、卵巢から這入つて來た卵子が徐々に內送せられて子宮に達するのである。

斯くの如く輸卵管は卵子を子宮に輸送する用を爲すものであるから、管が閉塞すると卵子の通路を妨げて不姙を來たすのみならず、炎症を起して疾病を醸す事が多い。

輸卵管の異常には先天性と後天性のものとある。先天性に屬するものは、管の缺損せるもの、管の短小なるもの、管の狹隘なるもの等で、兩側のものと一側のものとある。一側のものは姙娠可能であるが。兩側のものは絕對に不能である。又、管が短小で卵巢に達しないものは、卵子が腹腔に落ちて子宮外姙娠を起す事がある。

後天性に來たすものは局部の疾患若しくは他部の炎症が波及したるもの及び外科手術によつて切斷したもの等である。

三、子宮

子宮は小骨盤內に於て膀胱と直腸との間に介在し、其の形は略ぼ扁たい壺を倒さにしたやうである。上方は廣く下方は狹く、少しく屈曲し、凸部は後方に向つてゐる。

子宮の大きは、人によつて異り、其の形も處女と性的既知者とによつて同じでない。處女に於ては普通長さ二寸二分、直徑上部一寸三分、下部八分、厚さ約八分八厘である。經姙婦の子宮は處女よりも大にして且つ圓いのを常とする。

子宮は次ぎの四部から成る。

（一）子宮底　上部

（二）子宮體　上部より下部に至る間

（三）子宮頸　下部

（四）子宮腔　内部に通ずる腔

（一）子宮底　は上方の廣い處であつて、稍や前方に傾き、其の兩側の上端は輸卵管と通じ、下部は卵巢靱帶と接してゐる。輸卵管は子宮腔と通ずるが、卵巢靱帶は卵巢を支持するのみであつて子宮の周壁と接してゐる。

尙卵巢靱帶の下に左右各一條の強靱なる圓い紐樣のものがある。これは圓靱帶（子宮靱帶）と稱するものであつて、少しく彎曲し、其の下端は恥骨に固着してゐる。長さ約四寸四分で子宮を支持する用をなすものである。

（二）子宮體　は子宮底から子宮頸に至る間の部分で、其の左右に濶大なる靱帶がある。これは濶靱帶と云つて、強靱なる膜質の靱帶である。此の雙帶は上方は子宮底より、下方は子宮頸に至るまで、全長に擴がつて、其の中に圓靱帶、卵巢、卵巢靱帶及び輸卵管を包んでゐる。これを要するに濶靱帶は尾靱骨の兩側に固着して、圓靱帶と共に子宮を保護するものとす。

右の外に子宮を膀胱と直腸とに聯結せしむる二種の靱帶がある。其の前面にあるものを前靱帶と云ひ、後面にあるものを後靱帶といふ。前靱帶は子宮と膀胱とを、後靱帶は子宮と直腸とを連接せしむるものである。故にもし如上の諸靱帶が疾病の爲め衰弱する時は、子宮を墜落せしむる事がある。子宮脫又は子宮弛垂と稱するものはこれである。

（三）子宮頸　は子宮の下部であつて、狹く、半ば子宮腔に突出し

てゐる。其の末端に孔があつて腟に開く。これを子宮口といふ。處女の子宮口は圓いが、分娩したもの丶子宮口は破裂して唇狀をなしてゐる。故に未產婦と經產婦とは容易に鑑別する事が出來る。

（四）子宮腔　は略ぼ三角形をなし、二角は上方にあつて左右の輸卵管と相通じ、下方の一角は一宮頸に接して頗る細い。

子宮腔の大小形狀は年齡によつて異り、幼女のものは甚だ狹小で、其の周圍は殆ど相觸れ、其の外口は堅く閉ぢて殆ど認知し難いが、春機發動期に至ると漸く大きくなり、外口は淺い凹狀をなし、更らに分娩した婦人は、子宮腔益々廣く、子宮全體も大きくなり、多少開いた儘に止まるものである。

子宮の周壁は厚い筋組織で、外面は漿液膜を被むり、內面は一面の粘膜で腺に富んでゐる。此の粘膜は子宮體腔と子宮頸腔とによつて異り、

前者の粘膜は平滑にして微紅色を帶び、密に筋層に附着し、腺は其の游面に開口し、粘液を分泌する事恰も胃粘膜のやうである。其の分泌物は透明粘稠で、初期に於ける胎兒の營養を司る用を爲す。然るに後者の粘膜は二列の突起から成り、中央線より放散狀に出で、姙娠中は子宮頸を塞いで、卵子の逃逸を防ぐ用をなす。

子宮は卵巢より掛出した卵子を受容し、精子と會合して姙娠する時これを發育せしむる用をなす。云ひ換へれば、子宮は胎兒の生育する處であつて、其の受容器たるに過ぎないけれども、子宮の異常及び疾病は不姙を來たす事がある。

子宮の大きさは前に述べた通りであるが、頗る伸縮力を具へ　姙娠の際は胎兒の成長と共に漸々膨脹して、臨月には直徑約八寸に達するけれども、分娩後は數日の間に收縮して以前の容積に復たるものである。

子宮は發育不全、疾患若しくは外傷等によつて異常を呈する事が多い。
先天性のものは發育不全で、其の他のものは後天性に屬する。其の主なるものを擧ぐれば、左の通りである。

（一）子宮缺損
（二）子宮矮小
（三）子宮口狹窄
（四）子宮膣部肥大
（五）子宮脫垂
（六）子宮前屈
（七）子宮後屈

（一）**子宮缺損**　は子宮矮小の甚だしきものであつて、恰も子宮が缺如せるが如く見えるのである。

（二）**子宮矮小**　には先天性と後天性とがあつて、種々の階級があるが、一般に局部の失小なるものを云ふ。其の先天性のものは發育の不全であつて、次ぎの二種がある。

（イ）身體、外陰部其の他は普通であつて、子宮のみ發育せざるもの

（ロ）子宮及び外陰部又は其の他のものと共に不完全なるもの

後天性にも種々あつて、多くは次ぎの事情から來る。

（イ）生後に於ける子宮發育の不全
（ロ）疾病
（ハ）分娩時の障礙

發育不全に基因する子宮矮小は月經の來潮遲く、其の來たるや下腹部、腰部又は兩脚等に激痛を覺え、且つ頭痛、眩暈、食慾不進等を來たし、

而も經血は著るしく少量であるか、若しくは全然來潮しないものである。
妙齡以上に達して尙ほ月經の來潮しないもの又は變調なるものは其の原
因が子宮矮小にある疑ひがあるから、斯うした婦人は速かに醫療を請ふ
必要がある。(月經の事は項を更へて說明する。)

疾患の主なるものは子宮實質炎、內膜炎等であつて、治療後子宮の萎
縮を來たし、分娩時の障礙も同樣の變狀を呈する事がある。

子宮矮小の高度のものは姙娠不可能であるが、輕症のものは姙娠する
事がある。併し多く流產を招き、十中八九は其の目的を達し得られない
ものである。

(三) 子宮口狹窄　とは子宮が狹く、或ひは塞がつたもので、やは
り先天性と後天性とがある。後天性の主なるものは、

(イ) 炎症若しくは潰瘍等によれる瘢痕の癒合

(ロ) 產後に於ける子宮口の收縮

(ハ) 慢性子宮頸管加答兒の爲めに其の部の組織肥厚してなれる狹
窄

等であつて、性交には妨げないが、姙娠には甚大なる障礙がある。卽ち、

(イ) 月經困難

(ロ) 精子の進入阻礙

等であつて、本症は不姙の原因中最も多いものである。

(四) 子宮腟部肥大　は子宮腟部の特に肥大するものであつて、甚
の肥大は初めは腟內にあるけれども、重症となると腟外に脫出して、
次ぎの子宮脫垂の如き狀態を呈するに至る。其の甚だしきものは腟口を
閉鎖して性交不能を招來する。

原因の多くは先天性で、後天性には

（ヘ）房事過度

（ロ）手淫

（ハ）月經時に於ける不攝生

（ニ）産後の不攝生

等から來る事が多い。

（五）子宮脫垂　は子宮下垂ともいひ、子宮が膣外に脫出するもので、俗に「なすび」と稱するものがこれである。

原因は子宮膣部の肥大と略ぼ同樣で、其の外産後に於ける過度の勞動、心勞又は子宮の疾患等である。

これは絶對に性交不能を意味するものではないが、往々性交困難或ひは嫌惡の情を起さしむるものである。

（六）子宮前屈　は通常よりも强度に前に傾いたもので、先天性と後天性とがある。後天性のものは、房事過度、頻繁な自瀆的逐情、月經時及び産後の不攝生、過度の運動、子宮の疾患等から招來する。

病的でないものは單に下腹部に壓迫を感ずる位であるが、重いものは左の如き症狀を呈する。

（イ）月經痛を來たす

（ロ）下腹部が釣る

（ハ）腰腹が痛む

（七）子宮後屈　にも先天性と後天性とがある。單に後屈したものと、後屈後傾したものとがある。

前屈と後屈とは次ぎの徵候によつて區別する事が出來る。

（イ）前屈の場合には、子宮膣部は下方に向ふ。

（ロ）後屈の場合には、子宮膣部は上方に向ふ。

子宮は膀胱及び直腸の間に介在するものであるが故に、子宮の變位は兩者に影響を及ぼす事が甚大である。故に子宮後屈は膀胱に尿の溜つた時には子宮は後方に壓迫せられ、大便の溜つた時には前方に傾くもので ある。

後屈の强いものは、

（イ）下腹部緊張し

（ロ）子宮下垂の感があつて、少し歩行しても子宮が下つたやうな心地がし

（ハ）大腿が下方に牽引せられるやうに感じ

（ニ）尿が思ふやう出ず

（ホ）子宮は充血して分泌液を增加する爲めに內膜に炎症を起し子宮內膜炎となる

四、膣

膣は直腸と膀胱の間にして子宮の下部にある。

其の形狀は扁平なる囊のやうであるが、其の周壁は著しく伸縮性に富んで、伸張すれば圓筒の如くなる。其の上部子宮に接する處は廣く、中央は少しく彎曲して、長さは三寸乃至四寸ぐらゐある。

膣の官能は前にも云つた如く、性交と生殖との兩樣を兼ねる。泌尿には關係ないが、月經の際には子宮から流血する經血を排泄し、分娩の際には胎兒の產道となる。

膣は一面に粘膜を被むり、前壁と後壁に縱走の隆起を有す。これを膣柱といふ。其の前壁のもものを前膣柱、後壁にあるものを後膣柱といふ。前柱は前壁の下に著しく隆起し、次第に上行して扁平となる。其の下端の隆起を膣櫛といふ。又兩側には多數の橫皺襞がある。これを膣皺柱とも云ふ。これと膣柱とを總稱して皺柱とも云ふ。

膣口は通常三部に分つ。

（一）陰唇繫帶

（二）膣括約筋

（三）處女膜

（一）陰唇繫帶　は膣口の下部であつて、小陰唇の左右相會する處である。その後方は卽ち會陰で、肛門と接し、難產の際に破裂して、甚だしい時は肛門と合する事がある。

經產婦の陰唇繫帶は概ね短小であるが比較的破裂し難く、初產婦の陰唇繫帶は破れ易い。何れにして破裂の際は直ちに醫師に乞ふて手術を受ける必要がある。

（二）膣括約筋　は膣口に存する輪狀の筋で、膣口の周圍を括り、性交の際に男子の陰莖を括約し壓力を增加する用を爲す。

（三）處女膜　は膣の前面に存する薄膜で、幼少の際は殆どこれを閉鎖してゐるが、成長の後には破裂して唯だその痕跡を止むるに過ぎない。

處女膜の破裂する原因は種々あるが、その主なるものは左の通りである。

（イ）性交　によつて破裂するのは極めて普通の狀態で、多く結婚の當夜に發する。

（ロ）自讀　卽ち手淫によつて知らず識らず掻き破る事がある。

（ハ）月經　初めて月經が來潮した時に破裂する事がある。其の際綿紙等を充塡する時は漸々其の破裂を大にならしめる。

（ニ）外傷　高處から墜落し若しくは轉倒した場合に起る事がある。

（ホ）激動　競走、乘車等も同一の結果を生ずる事がある。

（ヘ）疾病　陰門瘙痒症に罹ると爪で掻き破る事がある。

（ト）衰弱　永く病床に臥して衰弱すると、外陰部が自ら弛緩して處女膜が自から破裂する事がある。

斯くの如く處女膜は未婚の處女に存在し、結婚後は存在しないものであるから、其の存否によつて處女と非處女との區別を生ずるが、必ずしも處女膜の存否によつて處女非處女を區別する譯には行かない。何となれば處女にして處女膜の缺如せるものあり、結婚後も猶處女膜を存するものもあるからである、故に結婚の後尙處女膜が存在し、而も厚く强靱で性交を妨ぐるものは、醫師に切開して貰はなければならない。

處女膜が破裂する時は多少の出血を來たすものであるが、其の血液は小陰唇から來るものであつて、月經の血液とは關係ない。

膣の異常には膣口の閉鎖若しくは狹隘がある。これにも先天性と後天性とがあつて、先天性のものは處女膜の肥厚、膣深部の膜狀閉鎖等で、後天性の原因をなすものは外傷、痘瘡、ヂフテリア性病、陰唇象皮病、陰唇ヘルニア及び神經過敏等である。

（一）處女膜の肥厚　は前に說明した如く全く生來の畸形であるが適宜に切開すれば治癒するものである。

（二）深部の膜狀閉鎖　は膣の深部に於ける閉鎖であるから性交には妨げないが、精液は此の膜の爲めに遮ぎられて生殖は不能である。

外傷或ひは疾患に基づくものは陰唇の崩潰若しくは癒着によつて來るので、其の症狀によつて全然膣を閉鎖し、或ひは狹隘ならしむるのである。輕度のものは不完全ながら性交し得るが、强度のものは性交不能なるのみならず、生殖も又不能である。

五、陰核

陰核は陰挺とも云ひ、前庭に於て小陰唇の相結合せる處に存在する小圓體である。

其の構造は男子の陰莖と等しく海綿組織で、感覺鋭く勃起するものである。

陰核の異常には肥大症、萎縮、破裂等種々あるが、玆には性慾に關係の深い肥大症だけ説明して置く

陰核肥大症にも又先天的と後天的とがあり、前者は生來的に肥大せるものであつて、ホリックの示した例には男子の陰莖大、小指大のものがある。半陰陽には此の種の者が多く、中にはこれをもつて性交類似の事を爲し得るものがある。

後天性に來たるものゝ原因は主に手淫であつて、其の病的となれるものは感覺鋭敏で性慾昂進し、僅かに衣服の摩擦にも勃起するやうな現象

を呈する。

陰核の肥大は性交には別に妨げないが、往々多淫に陷つて種々の弊害を釀す。醫療を仰がねばならぬ。

六、大陰唇及び小陰唇

大陰唇は厚き二條の縦隆起で、上方は恥骨の邊より始まり、左右互ひに連合し、下方は會陰に達して結合してゐる。其の上部に於て結合してゐる處を前連合と云ひ、下部に於て結合してゐる處を後連合と云ふ。

後連合の内面に一種の皺襞があつて、横に連なれるものは陰唇繋帶と稱するもので、其れと膣口との間の小凹所は舟狀窩と名づくるものである。

大陰唇の外面は皮膚と同色で疎毛を生じ、内面は粘膜に被はれ、紅色にして腺に富み常に濕潤してゐる。此の腺の分泌物は酸性で一種の臭氣が

ある。

小陰唇は辨膜狀の皺襞で、內外共に粘膜を被むり、頗る腺に富んで常に濕潤してゐる。其の色は紅赤色で、幼少の際は其の色甚だ鮮かであるが、成長するに從ひ暗紫色を呈する。

小陰唇の上方は大陰唇の前連合の中間に介して陰核を包み、其れより左右に別れて所謂小陰唇脚となり、下方は後連合に於て陰唇繫帶と連なつてゐる。

陰唇の形狀及び大小は人により、又人種によつて一樣でない。陰唇の異常は

（一）陰唇肥大

（二）陰唇萎縮

の二種がある。

（一）陰唇肥大　は陰唇の脂肪組織が肥厚したものであつて、先天性のものはホツテントツド婦人の前垂の如きもの、後天性のものは陰唇ヘルニア、象皮病、脂肪腫、癌種等である。

（二）陰唇萎縮　は前者の反對に陰唇が縮小若しくは乾枯の狀態に變化したものを云ふ。

先天性萎縮は陰唇の缺如若しくは發育の不完全なものであつて、後天性萎縮は外傷又は疾患の爲めに招來した變形若しくは癒着である。

疾病の主なるものは陰唇瘙痒症の類で、一度これに冒されると、大陰唇は脂肪及び光澤を失ふが故に乾枯して、さながら革皮の如き狀を呈し、小陰唇の如きは往々消滅して、僅かに痕跡を有するに過ぎないやうになる。同時に膣も亦變形狹窄し　遂に性交生殖の不能を來たす事がある。

乳房も又生殖器の一部と見做すべきもので、其の生理的機能より云へば蕃殖器であるが、其の神經が生殖器の神經と連絡して勃起性を有し、性慾を昂奮せしむる等性交器の一部とも見られる。詳細の事は性慾を論ずる上に必要ないから省略する。

七、乳房

八、月經

月經はグラーフ氏胞の破裂によつて起る生理的現象であるが、卵巢の出血のみでは未だ月經を起すに足りない。そこで經血の源を尋ねて見ると、輸卵管の分泌液と子宮粘膜の出血との二源がある。

輸卵管の分泌液、これはグラーフ氏胞の破壞から生ずる液である。グラーフ氏胞が破壞する時は胞液、血液及び其の他の分泌液も卵子と共に子宮に送られるので經血の一部とはなるが、固より其の量は僅少である。然るに子宮の出血は、子宮の粘膜に分布せる小血管の破裂から來るもので、其の量は遙かに多い。此の子宮粘膜は月經前に約四仙米許りの厚さとなつて充血する爲めに、潮紅して柔軟となり、且つ弛緩して遂に其の粘膜が崩れ落ちると共に、其の血管が破れて出血するのであるが、其の粘膜の上皮細胞は直ちに再生し始めて、月經の開始後十六日乃至十八日頃に至れば再び月經前の粘膜腫脹を來たすのである。

月經の持續日數は通常三日間乃至四日間で、三日間の者が最も多い。時としては七日間乃至十日間も繼續し、短い者は二日間若しくは一日で終るものもある。餘り長引く者も餘り短いものも共に異常で固より良い現象ではない。

經血の量も人によつて一樣でない。普通は百瓦乃至二百瓦で、稀れに二百五十瓦以上などいふ多量の者もある。

斯様に貴重な血液を失つても、毎月是非とも起らなくてはならぬ月經なるものは、そも何の必要があるのであらうか。一說に喇叭管を傳つて卵巢に送られて來る卵子を、子宮の粘膜に附着し易からしめ、且つこれを養ふのには、充血して組織の軟弱となつた舊粘膜では不適當であるから、卵子の來る前に破壞して新粘膜を用意しなければならぬ。これを簡單に云へば、子宮の充血した舊粘膜は卵子を養ふのに適しないから、新粘膜に代はる爲めにその一部を脫落するのが卽ち月經であるといふのである。

この說はブリユーゲンといふ學者の說で、以前は一般に信せられてゐたが、その後ライヘルト、ダギスモントなどいふ學者が出て此の說に反對の說を唱へた。

それは子宮粘膜が充血して潮紅腫起するのは、つまり受胎した卵子の

附着に供してこれを發育せしむる爲めである。故に卵巢が發育すればその影響として子宮粘膜は充血し、そしてその充血した粘膜の作用で受胎卵を養ふのである。故に卵子が受胎せずして空しく體外に去る時は、充血した子宮粘膜は　その機能の必要がなくなるから崩壞して出血を來たす。これが月經であるといふのである。

此の說は近來信ずるもの多く、ブリユーゲルの說に對して新說の名がある。新說によると姙娠中月經の閉止する理由がよく解るが、舊說では說明出來ない。尙、舊論によれば月經は卵子の子宮に來る前に生じ、新說に從へば卵子が子宮を去つた後に生ずるのである。

此の理由からして姙娠の起る時期、卽ち卵子と精子と會合して受胎する時期も自ら二說に分れる。舊說では姙娠は月經後に起り、新說では月經前から起るといふ事になる。（受胎作用に就ては別に說明する。）

卵巢の事は既に說明した。更らに茲に卵子に就て說明して置かなければならぬ。

九、卵子

今卵巢を採つて解剖して見ると、中に二三十ばかりの細胞を含有してゐる。此の細胞が卽ちグラーフ氏胞で小さい豆の大きさである。中に白液が充滿し、液の中央に針頭大の物質がある。これが卽ち卵子である。肉眼では殆ど見る事が出來ない。卵珠の總數は約二萬乃至五萬であるが、女子一生に排出する卵數は四百個を超えない。その餘は發育不全に終るか退化するのである。

卵細胞は

（一）卵黃
（二）種胞
（三）種斑

の三成分から成る。

卵子の周圍は硝子樣の透明なる薄い膜で覆はれてゐる。これを透明帶といふ。その內側に微細な空隙がある。これを卵黃周圍腔といふ。

卵子は同一に皆成熟するものではない。充分に成熟したものと未だ成熟しないものとある。併し必ずその一個づゝが他の凡てよりも遙かに成熟する。その成熟は次ぎを逐ふものである。成熟した卵子は卵巢を去つて子宮に宿り、若し男子の精子に會つて受胎すればその儘子宮に止まつて發育し、若し受胎しなければ體外に排出される。此の受胎作用に就ては別に後節で說明する。

一〇、以上の總括的說明

以上、やつばり男子生殖器の說明のやうに甚だ煩雜なものになつて了つた。これでは讀者も困るだらうから、前の例にならつて以上の概括的說明を繰

り返して置く。

女子の生殖器中、先づ吾人の眼に觸れるものは二個の大なる縱隆起卽ち大陰唇である。その中に更に又二個の小なる皺襞がある。これを小陰唇といふ。小陰唇の內部に二個の孔がある。上部の小孔は尿道外口で、下部の大孔は膣口である。

小陰唇が上部で結合する部分の陰核と稱する小さな物體がある。陰核は陰莖に類似したもので二個の海綿體と龜頭とから成る。陰核の下に粘膜に被はれた海綿質の靜脈叢兩側がある。これを前庭球といふ。膣口の兩側にバルトリン氏腺と稱するものがある。これは男子のコーペル氏腺に相當する。

處女の膣口の內部に物を突き入れようとすれば、處女膜と稱して重複した粘膜から成る一つの膜に遭遇する。此の膜が膣口を狹窄した狀態は

種々あるが、大抵はこれを破裂しなければ性交は出來ぬものである。

膣口の奥は管狀の腔で、休息してゐる時は前後の兩壁が互ひに接觸してゐる。膣の上端に一つの口がある。これが子宮の口である。子宮の上部兩側に各一個の小孔があつて輸卵管に通ずる。輸卵管は細狀の管で、子宮の外側に存する卵巢に接する。卵巢は男子　睾丸に當り、女子の胚種腺で內部に水泡狀の物質がある。これをグラーフ氏胞といふ。

グラーフ氏胞には各一個の卵子を有する。此の卵は女性が性的に熟して來ると四週間毎に成熟し、輸卵管を通つて子宮に達し、男子の精子に遭遇して受胎し、或ひは胎兒となり、或ひはその儘殘留し、或ひは子宮外に排出される。

卵巢に於けると同じく、子宮內にも又四週間毎に重要な作用を起す。血液を多量に集中して遂に子宮內に滲出し、それより膣を通過して體外

に排出せられるのである　これを月經といふ。卵子が受胎して姙娠狀態に入ると普通月經は停止するものである。

先づこれ位に記憶して置ば宜しい。

五　女子生殖器と性慾との關係

女子生殖器の一部は、男性の場合と同一の作用を起し、彼の陰核の如きは心理的並びに肉體的刺戟によつて勃起するものである。此の心理的とは男性を想像する事、肉體的とは男子の如く種々なる方法による事で、これ等の狀態により陰莖の如く勃起する事を得るのである。

生殖線の狀態は肉體的刺戟と同樣の作用を有する。身體の或る一部接觸に特に陰核、小陰唇或ひは女性の肉體に存在する挑發的部分を刺戟した時も同樣である。又快美感覺に關係ある處の靜脈網を刺戟すれば靜脈

血液が欝充する。一般に生殖器に性的刺戟を與ふれば激しい血液の供給をなすものである。

又、男性の場合と同じく、性交殊に調節的筋肉收縮によつて、粘液の分泌を增し、その際或る會陰筋及び膣筋もその活動を動ける。(子宮も同樣にその作用を補助するらしい)此の筋肉の收縮は分泌物を滲出するもので、男子の射精に相當する。併し此の分泌物は女性の芽細胞を含まない全く無關係の物質から成つてゐる。卽ちバルトリン氏腺、子宮粘膜、膣粘膜及び陰部の粘液腺等から分泌する粘液である。

女子は又性交的に既に腺分泌を增し、性交の際濕氣を帶びるものである。これを快美外粘液漏といふ。此の快異外粘液漏は如何なる腺の作用であるか今尙疑問に屬してゐる。

女子の快美感覺は漸次昇騰して、次いで同樣の快感となり、やがて極

期に達すれば直ちに消激するものである。オット・アードレルといふ學者は男女の快感を次ぎの如く確定してゐる。

男子の快感は雪崩の如く增加して直ちに消滅するものであるが、女子の快感は漸次に增加して漸次の減少消滅するものである。併し男女間の快感には更らに他の相違點がある。それは女子には屢々快美感覺の缺陷する事がある事である。而も性慾の缺陷とは全然別物であつて、性慾は全く普通の狀感でありながら、快美感覺の缺陷する場合があるのである。

六　受胎作用

性交すれば射精する。射精された精子は女性の子宮内に進入して卵子と逢會する。此の時精子は頭部をもつて卵子の表面卵膜を破つて穿入する。その精子の數は一個で、二個以上は竄入しないものである。

偖て、精子が竄入した卵子は分裂作用を開始し、初め二個分裂する。續いて四個、八個、十六個、卅二個と分裂して行く。これが胎兒となるのである。

斯くして精子の竄入した卵子を姙卵と云ひ、その姙卵を子宮内に抱懷した狀態を姙娠といふ。

姙娠には必ず一定の條件が必要である。左にその要項を示す。

（一）　完全なる生殖器たる事。

（二）　卵子の健全ならざる可らざる事。

（三）　精子の健全ならざる可らざる事。

（四）　性交は適當なる時期に於て行はざる可らざる事。（普通月經前三日間月經後十日間のうちが受胎に利ありとされてゐる。）

（五）　精子と卵子は適當の場所に會合すべき事。

生殖器が不完全な時は姙娠する事が少いのは勿論、たとひ姙娠しても
その結果は不良である。
卵子か精子か何れか一方が不健全なる場合も同様の結果を生ずる。勿
論兩者が不健全なれば猶更に不良である。
性交は姙娠に缺く可らざる條件であるが、卵子が子宮を去つた後即ち
月經後十日を經てからは幾何程性交しても効果はない。
精子は活潑なる運動を行ふ事は前に説いたが、膣内に射入せられた精
子は自働的に子宮に進入するのであつて四時間は生存して
卵子を受胎せしむる力がある。故に性交後數分間に受胎する場合もあれ
ば、數時間乃至數十時間の後受胎する場合もある。
猶、姙娠作用に就ては種々述べなければならぬ事項がいくらもあるが、
直接性慾學には關係がないから、此の位で止めて置く。

七　内分泌と性慾

性慾作用に關する内分泌には生殖腺の内分泌と、その他の腺の内分泌
との二樣に分つ事が出來る。

（一）生殖腺の内分泌　以前は睾丸及び卵巢は唯だ單に芽細胞の製
造をなすものとのみ考へられてゐたが、最近に至り此の兩者は又他の特
別なる作用即ち内的分泌をも爲す事を知るに至つた。
芽細胞は精子及び卵子に變化するが、他の細胞組織殊に睾丸に於ては
ライデツヒ氏組織、卵巢に於てはグラーフ氏體が内的分泌の用を爲す。
即ち一種の刺戟性化合物を血管中に直接分泌するのである。
此の内的分泌は男女兩性の第二性的特徴を（男性には男性的特徴を、
女性には女性的特徴を）形成せしめるのである。又同時に性的刺戟の作

用をも爲す。

（二）その他の腺の内分泌　甲狀腺、松菓腺、腦垂腺の諸腺は殆ど性慾の原動力とも稱すべき内的分泌をなす。

（イ）甲狀腺　此の腺が腫大すると一種の色情狂となる　分泌過度も同樣の結果を招來する。女子の月經時、妊娠時、月經閉止期には肥大するのを常とする。若しこれを除去する時は一種の病的作用を起し、内分泌が閉止すると性慾が消滅するものである。以て甲狀腺が性慾に重大なる關係を有してゐる事が解る。

（ロ）松菓腺　松菓腺に腫瘍が生ずると非常に早熟となり、四才、五才ぐらゐで性慾が發達する。榊博士がその著書に發表したオーグルの例によると、六才の男兒が松菓腺肉腫で死んだが、死の二三ヶ月前から頻りに手淫をなし、陰莖は十六七才の男子程に大きくなり、且つ陰毛を

發生したさうである。

（八）腦垂體　の分泌は生殖器の發育を促し、幼時に此の分泌が盛んであると　全身殊に生殖器及び性慾の發達を速かにするものである。

第四章　性慾と戀愛

一　性慾の通俗的觀察

性慾の發現狀態を、極めて通俗的に觀察して見ると、左の三種に分つ事が出來る。

（一）何となしに異性の慕はしくなる情

（二）單に異性の愛を得んと欲する情

（三）異性と交つて性慾を充たさんと欲する情

（一）と（二）は多く少年時代にあつて、性慾の何たるを知らないうちに恰も淡き夢の如く又幻の如く生ずるものである。故にこれを性慾の萠芽と見るも不可なかるべく、極めて純潔なる性慾である。成長して性慾の意義を悟るに及んでも尙ほ此の純潔を尊び、性交を卑しむ人がある。所謂プラトニック・ラヴとも稱すべきものである。

（三）は普通にいふ處の性慾、卽ち狹義の性慾であつて、異性との交情を發現したものである。併し其の發情狀態は體質及び男女性によつて異り、甲には强く乙には弱く、丙は能動的にして丁は受動的である等の差異がある。併し、何れにしてもその思ふ處の異性と親み快感を得んと欲する情は一である。

茲に云ふ異性とは對象的性別の意味で、男性より云へば女性、女性より云へば男性の謂ひである。此の異性に親しまんと欲する情は兩性同一

であるが、男性は能動的で女性は受動的であるが故に、その接近の狀態に自ら差異があるのである。これを委しく云へば、男性は進んで女性を求むる位置に立ち、女性は男性の要求を容れてこれを許す位置にあるのである。男子の女子を求むるのは獲得であり、女子は許諾の形となるのである。

性慾は通常異性によつて發し、同性間に起る事の無いのは、同性相反し異性相牽くの原則によるのである。故に異性は性慾の根源であつて、性慾に異性を離れて生ずる事はない。（顚倒性慾の同性愛の如きは別である。）

性慾の目的を遂行する方法を性交といふ。英語の所謂セクスアル・インターコースである。異性の生殖器を接合して一種の快美感を得るのである。

性交から生ずる感情及び性交を遂げしむる性慾は動物によつて異なるが、人間に於ける性慾は生殖腺の特別なる刺戟と、精神的同情並びに知的感覺と聯合から起るものである。

性交は適當なる方法と適當なる事情の下に遂行せらるゝ時は快感を生ずるけれども、若し然らざる時はこれに反した結果を生ずる。故に性交の適當なる滿足は幸福を來たし、不適當若しくは不滿足なる性交は不幸を招致するものと見て差支へない。

人間の性交力はこれを使用する方法の如何によつて、或ひは長くこれを持續し、或ひは早く衰萎せしむるものである。言葉を換へて云へば、性交の濫行はその持續期を短縮せしめ、これを節する時はその持續期を長からしめるのである。

持續期の長短も人によつて異り、特に男女によつて異る。男子の性慾

は高年に及んでもへ衰ないかはりに、性交力はこれを伴はずして多くは早く衰萎するのを常とする。然るに女子はこれに反して、その性交力の持續期は長いかはりに性慾は早く消滅する。

性交は一種の快美感覺を求むるにあつて、必ずしも生殖を主とするものでない事は前に述べた通りである。併し、これを自然の側から云へば、生殖の目的を遂行せしめんが爲めに、特に性慾なる快感を動物に賦與したのであるから、生殖の目的に添はざる性交の濫行は、自然に違背した行爲であるといふ事が出來る。特に女性には男性よりも多く生殖慾——子を希望する慾望——があるやうである。

異性によつて快感を求むるものに、前述の如く性交卽ち肉體によらずして精神的に心を喜ばしむるものがある。

男性によつて心を歡ばしむるものは、その容貌、音聲等の如き感覺器

を刺戟して美感を腦に與ふるものと、直接に精神を歡ばしむるものとの二種がある。容貌の美は人種により、又個人の嗜好によつて異るが故に一定せられないが、併し異性の美貌が快感の要素であつて、美の感情が無ければ快感を得る事が少いのは事實である。音聲その他も同一の意味を有する。

異性の接觸は生理的に快感を生ずるものであつて、容貌には關しないが、これも又身心相關の理で、容貌の美なるものは美なる程多く快感を惹き、醜いものはこれに反する事は勿論である。異性の觸覺美は畢竟視覺美に比例すると云つても、敢て誣言ではない。(此の理の科學的說明は次ぎの項目に述べる。)

併し兩性愛の人となれば、所謂痘面も笑靨であるから、容貌の醜も又敢て悲觀したものでもないのである。

二　性慾作用の二分類

以上は極めて通俗的な說明であるが、これを科學的に分類すると、結局左の二樣の異つた作用となるのである。

第一　生殖器に關する作用で、委しくこれを云へば、一部分は無自覺に、一部分は普通の感情、或ひは普通の觸覺及びこれと同樣の感覺で自覺に訴へられる作用。

第二　男性を女性に、女性を男性に誘ふ心理的高等作用。

普通の性慾生活には此の兩作用が連結して起り、分析的に分配し得ないのみならず、多くの場合臨床實驗的に分離して考へる事も不可能である。アルベルト・モールといふ學者は、性慾の分析に此の分類法を利用して、第一作用を收縮慾と云ひ、第二の作用を接觸慾と名づけてゐる。

更らにこれを明かに説明するには、その作用が個人的に起つた場合から説明すると解り易い。收縮慾は時として唯一の性慾表現となる事がある。今茲に皮膚の痒いのを掻くのと同じく、生殖器から生ずる感覺に刺戟されて自瀆的遂情を行ふ痴者があるとする。此の際彼れは他の人間を想ふ事も、又他人に接觸しようとする慾望を起す事も無いのは勿論である。猿、種馬、種牛等の如き動物に此の現象を見る事が多い　彼の種馬が連續的に生殖器を打ち、精液を射出するに至つてこれを休止するのは、決して牝馬を聯想しながら行ふのではなく、一部分の生理的刺戟によるものと見るのが正當である。

第二の接觸慾も單獨に起る事がある。例へば茲に一人の兒童があつて、春機發動の未だ他人の目につかない久しい以前に、婦人に接近せんとするか、或ひは接吻せんとする慾望を有したが、當時未だ自瀆その他の性

的行爲を知らなかつたとする。彼れは或ひは生殖器の勃起となり、或ひは射精となつて自ら驚愕する事があるであらう。

性的既熟の普通人には收縮慾と接觸慾とは連續して表はれるものであつて、異性に接する事によつて收縮し、遂に性交を實行するの慾望を有すに至るものである。何れにしても普通に發育した人間の性慾作用を理論的に研究すれば、上述の二作用に分析する事が出來るのである。

收縮慾は女性にも單獨に起るものであつて、例へば痴呆者の場合に於けるか如きである。動物にも然うした場合があつて、交尾期の牝牛が或る物體に後部を押しつくるが如きはよく吾人の目睹する處である。接觸慾も同じく單獨に起るものであつて、勿論男性に對して起るのであるが、性慾行爲に對する願望無くして起り得るものである。

大抵の場合女性に於ても此の兩慾が結合して起るものであつてその結

果性交を欲する事となるのである。勿論收縮慾及び快感の缺陷した時、或ひは性交によるも快感を感せずして、自瀆の如き或る他の方法で快感を感ずるが如き時は、その情は男性とは幾分異つてゐるものである。

性慾の元奮は勿論、此の兩慾は各々肉體的並びに精神的刺戟によつて發生せしむる事が出來る。その際普通の發育した人間に於ては兩慾は密接に連合し、唯だ分析的に分析し得るものである事を忘れてはならない。刺戟そのものに就ては既に前章にこれを說明したから更めて茲には述べない。

三　中心作用と周圍的快感

何が故に快感、快感の極期及び同時に滿足感情が起るかを研究して見る。

此の作用を理解するには、生殖器の周圍的經過を觀察したのみでは不完全である。同性間性慾（に就ては後章で說明するが）を行つてゐるものが、他の同性を腦中に描きながら異性と性交して勃起と射出とを爲し得たりとも、快美の極滿足感情に到達するを得ないものである。これは彼れが彼れに對して交感的なる同性を抱擁してこそ初めて快美感覺と安心感情とに到達し得るものであるからである。

女性に於ても此の事實は同樣である。性的感覺と稱する場合は、その女がその女に對し、性的交感的なる男子と性交すれば直ちに變化することが多い。吾人は曾て或る男子が何等快感及び滿足を感じないのに、女子は完全なる快美感覺を得た實例を見た事がある。これは男子が女子を愛さなかつたのに、女子が男子を愛して、その愛せる男子を腦中に描いたが爲めである。何れにしても斯くの如く快感と滿足感情とは心理作用

に重大な關係を有するものなのである。又、快美感覺の極に達せんとするには周圍の狀況も少なからず關係を有するものである。卽ち皮膚の解剖的成分及びそれに適合した神經の狀況がこれである。

又、快美感覺の極が發育者にあつては射出と直接の關係を有する事は經驗の敎ふる處である。これは或る調節的筋肉の收縮によつて起るものであつて、オツト●アードレルといふ學者は此の收縮をもつて快感の重要部分とし、射出せずとも快美の極に達し得るが故に、射出は必要なものでないと云つてゐる。

これを要するに、吾人が性交によつて快美の極と完全なる滿足感とに到達せんとするには、或る中心作用の必要なる事を確認するものである。

四　性慾の美的發露

性慾の美的發露卽ち戀愛なるものに就いて少して說明して置く。

戀愛とは男女兩性が有する性慾の旨動であつて、卽ち內在せる性慾と外面の刺戟と自然性の誘發等が一致して發作する時に、其處に美的發露として戀愛なるものが生ずるのである。吾人は本書の第一章に性慾は人類と動物との別なく、皆一樣に賦有せらるゝ處の本能であると云つた。故に若し靑年男女がたゞ徒らに肉感を滿足せしめんが爲めに性慾を發露するならば、其れは明かに動物的であると斷ずる事が出來る。未開なる——殆ど動物に近き——野蠻人は最も露骨に性慾を發露するものであるが、文明階級にある吾人等は性慾を精神的に進化し、戀愛なる美的發露を有するが故に、他動物よりも高等の位置を占めてゐられるのである。

何れにしても戀愛は性慾の上に立脚した精神的美化である。そして其の美化の感覺によつて、其れが野蠻人又は下等なる動物的の性慾となり、

又は理想を立脚として行ふ處のものとなるのである。

戀愛の目的は要するに性慾の滿足にある。たゞ精神的の快樂をのみ追ふのが戀愛であるとすれば、其れは實に尊敬すべき美しいものであるが、果して其れは永久的のものであるか何うか、場合によつては然うした戀愛所謂プラトニック・ラヴもないではないが、先づ多くは性慾の目的に達するのが普通である。又其處に達するのが最も自然であり合理的である。

但し、年少者の戀愛に至つては多く精神的で、たゞもう密の如く甘き小說的な心をもつて、異性から精神的の愛情を受けんとし、何等肉體の上に性慾の自覺を有さない。故に失戀等の場合には非常に深刻なる悲哀を感ずるものである。そして其れが又頗るロマンテイックである。

併し、一度其の戀愛が肉體的に目醒めると、其處に離れ難い一つの連鎖を生じ、所謂靈肉一致的の發展を遂げ、眞の現實生活と結合されて結

婚となるのである。

夢の如きロマンテイックな戀愛をもつて、最も美しい神聖なる至上的戀愛であると解する人がある。現に吾人の如きも青年時代には當時のロマンテイックな文學の風潮に動かされた爲めでもあるが、然く信じて疑はなかつた。併し今日に至つて當時を顧れば、其の餘りに夢幻的であつたのに失笑を禁じ得ない。然らば眞に尊敬すべき戀愛とは如何なる戀愛を指すのであらうか、其の答へは極めて簡單である。曰く、道德の愛に築かれた處の性慾であると。若し戀愛に高下を附し得るならば、斯くの如きが最も高等なる戀愛であるといふ事が出來る。

人は往々神聖なる戀愛といふ事を誤解してゐる。單に肉を離れての戀愛を神聖なりと解釋してゐるやうだが、其れは寧ろ內容不完備な畸形的戀愛である。眞に神聖なら——此の場合神聖といふ語は甚だ厭味を感ず

る言葉だが――戀愛と稱するものは、自覺せる戀愛でなければな　ない。道德的のものでなければならない。又現實生活と交涉のあるものでなければならない。

五　二個の戀愛觀

現代の戀愛思想を代表する二個の議論がある。

其の一　は、人生の意義は戀愛にある。若し人生から戀愛を取り去つたならば、人生は砂を嚙むやうな乾燥無味なものになつて、恰も亞弗利加の砂漠中に生き埋めされたのも同樣である。人類が往々戀愛の爲めに身を捨て、或ひは憤死する事の少なくないのは、人生の價値の上に戀愛が重大なる意味を有する證據である。人間の最も怖るゝ處のものは死である。然るに一旦思ひを遂げられざる處より、戀無常を觀じて五十年

の一生を放擲して聊かも顧みず、莞爾として死を悔ゐざるが如きは、決して他の動物に見る能はざる特徵である。且つ人間の「笑ひ」は全く戀愛表情の進化發達したものであつて、絶えて他の動物に見ざる處の特徵である。

戀は勿論失戀と否とを論ずる限りではないが、戀愛其のものゝ眞價は寧ろ失戀にある。戀ひ焦れて悶え死するに至らば、絶美の極これに過ぎずと信ず。尙又戀愛の成就は社會道義の根本であると信ずる。青春男女間に戀愛生じてその成就を見るや、茲に家庭を作つて夫婦が成り立ち、夫婦は子女を設けて父母となり、子女は兄弟姉妹となる。更らに孝女は父母となり　父母は祖父母となり、その愛情は自ら孝悌友愛の道義となつて實現する。彼の『戀せずば人に心の無からまし、物の哀れはこれよりぞ知る』とは、戀愛が道義の根本たる事を詠んだものである。

自由戀愛說は古來から稱へられあるが、近世に至つては此の思想をもつて社會組織の根本思想となし、歐米の社會に於ては非常な速力をもつて傳播せられつゝある。蓋し此の思想は形式習慣に拘泥せず、婦人を解放して純然たる愛の結合を求むる理想から生じたものであると思惟せられる。卽ち戀愛は愛の實現であつて又道義の根本である。近代の思潮が果して戀愛は道義の根本と云ふまでに達して居るか何うか知らないが、吾人の信ずる處ではその點まで漕ぎつけなければならないと信ずる。此の見地より言へば、戀愛を解するは瞑々の中に人生の意義をも解したるものと云ふて不可ない。——と斯ういふのである。

其の二　は、人類は一面に於て頗る神聖なるものあると共に、他の一面には必ずしも神聖となすに足らないものがある。人は萬物の靈長であるといふが、吾人の生命は僅かに數十年に過ぎずして、時々刻々、其

の刹那に於てさへ墓場へ墓場へと近づき、吾人の此の温き肉體も遂に彼の冷き墓場の裡に永久の眠りに就かざる可らざる運命が矢の如く襲ひつゝあるのではないか。あゝ人生僅かに五十年、此の一瞬に等しき短い生涯に於て、吾人は吾人等の本具する處を滿足せしめなければ、人生は全く意義の無いものとなつて了ふ。其の吾人の本具する處のものとは何ぞ、其れは眞情の流露せる詩歌の上に、文藝の上に、又他の藝術の上に於てこれを說明しつゝある。其の本具の慾望を滿足せしむる處に人生の幸福は存在するのである。彼のアナクレオンの如きは、吾人の慾望を滿足せしむる爲めに最大の努力をなすをもつて、人生の最大幸福としてゐる。

——と先づ大體斯ういふ議論である。

これを要するに、前者は戀愛をもつて人生の目的と考へ、後者は性慾の滿足、本能の滿足をもつて人生の最大幸福なりとしてゐるのである。

何れも半面の眞理を含んでゐるが、未だもつて吾人はこれに首肯する事は出來ない。前者の思想に於ける戀愛は、吾人の屢々說明した精神的戀愛に多く傾き、戀愛の眞價は寧ろ失戀にあり、戀愛の爲めに狂熱し、戀ひ焦れて悶え死にするは絶美であるなどゝ云ふのは、戀愛の變則なる結果から起つた心理狀態を修飾し美化したに過ぎない。吾人の謂ふ處の戀愛の眞價は決して斯くの如きものではない。

又、後者の思想も原始野蠻の時代ならばいざ知らず、今日に於ては眞摯なる性慾學者の決して首肯する處でない。單に本能を滿足せしめ、性慾を滿足せしめて飽くなきに至るならば、社會的に個人的に如何なる結果を招來するであらうか。斯うした誤まれる思想を矯正し、その傳播を防止するのが、吾人等性慾學者の任務である。

繰り返して云ふ。戀愛は必ず自覺せる戀愛でなければならない。道德

的戀愛でなければならない。生活と交涉を有する戀愛でなければならない。然るに前者の思想には實際生活と交涉を有するや否やが明かでない。又後者の思想は正しい自覺がなく、道德的でなく、實際生活とも何等の交涉がない。吾人は斯くの如き放縱なる性慾滿足主義を以て正しい戀愛であると見做す事は出來ない。

六　戀愛と生活との關係

兩性の正しき戀愛は人間生活の根本目的である。戀愛程人生に深刻なる感動を與へるものはない。又、眞に純なる人格を生むのも正しき戀愛である。卽ち人類社會の發展の理想を成熟し、他に自己滿足の充實を現實するには、たゞ眞の戀愛によるより外に道はない。

戀愛は極めて嚴肅重大なものであつて、人間生活の根源は凡て茲に歸

着するのである。言葉を換へて云へば、戀愛は人生なりとも云ひ得るのである。人生一切の風俗、習慣、制度、文物は皆此の戀愛から表はれたと極言しても敢て過言ではないのである。

男女兩性の愛情が盛んになれば、曾だに性慾のみを以て滿足しない。茲に一家をなして團欒を樂しむ希望が生ずる。吾人が所謂戀愛は實際生活と交涉を有するといふのは卽ちこれである。

ネツケといふ學者は愛情の本性と其の發達に關する事情を次ぎの如く說明してゐる。

愛情の中で最も早く生じたものは、母の子に對する愛情である。これは自然に本能として賦有せられたもので、最も確實且つ强盛なものである。これに次ぐものは、子の其の母に對する愛情で、これ又自然に本能として生じたものである。

其の次ぎに生じたものは、父の子に對する愛情で、夫婦の關係と父子の關係とが確實になつた時に起るものである。又其の關係があつても後に絕えた場合は、從つて其の愛情も消える事が多い。故に父の愛情は本能でなく所有の愛であるといふ說がある。

それから兄弟姉妹の愛情、夫婦の愛情、他人に對する愛情が生ずるのである。併しこれ等の愛情は本能でなく、知的若しくは情的によつて發達したものである。これを例へれば、兄弟姉妹の愛情は親子の愛情より、夫婦の愛情は性慾より進化したものである。これを換言すれば、最初は唯性慾のみあつて愛情がなかつたのであるが、家庭を成し、夫婦同棲するに及び、次第に相愛する情が生ずるのである。故に眞の夫婦の愛情は家族的關係に於て最も遲く生ずるものである事が解る。云々

夫は年若く美しい妻があるにも拘はらず、其の妻を顧みないで、折花

第五章　性慾の發達狀態

一　收縮作用の現象

今迄の處は極めて平易な研究であつたが、以下少しく複雜な研究に移らなければならない。性慾現象の稍や詳細な分解研究である。

研究の對象としては兒童を用ひる。何故兒童を用ひるかと云ふと、兒童の性慾現象は極めて單純で觀察するに都合よく、叙述し易く理解もし易く、且つ吾人の性慾發達の經過をも併せ知る事が出來るからである。

そこで、先づ收縮作用から説き始め、續いて接觸作用に説き及ぼし、次ぎに稍や複雜な此の兩作用の連結現象を説いて行くつもりである。或ひは解り惡い處があるかも知れないが、前後對照してよく研究されたな

擧柳を事とし、妻が孤閨に涙を飲んで暮す日が續いても、子供が產れるに至つて、夫婦の仲が睦ましくなるのは、親子の愛情が、夫婦の間を結び付けるので、「子供は夫婦の鎹」と云ふのは此事である。

ら思ひ半ばに過ぐるものがあらう。

先づ勃起現象から説明する。

勃起は兒童には勿論乳兒にも起る事がある。時としては包皮の狹窄、陰莖の炎症等病理的原因から起る事もある。勃起は鬱血を伴ふ現象である事は成人した人間も同樣で、斯くの如き時は決して性的作用に支配されて勃起するのではないが、併し性慾生活に對して全然無意味であるとは云へない。

病理的刺戟によつて起さしめられた生殖器の感覺は勃起によつて增加し、兒童の注意が著しく陰莖に集中する事は何人も知處るである。斯くの如き感覺の結果、兒童は陰に陽に陰莖に手を觸るゝようになり、恰も他の痒い部分を掻く事を直ちに學ぶが如く、陰莖を掻き始めるものである。

フリユーグル、ブライエルの二家が曾て重複瘙痒について研究した結果、兒童は生後數ケ月にして痒い部分を掻き得る事を確めた。故に兒童は陰莖に瘙痒を感じた時、これを掻く事を手始めに自瀆を行ふやうになるのである。そして一旦此の快味を知つたが最後、なか〳〵此の惡習から脫する事は出來ないものである。

兒童が勃起を起す原因は外界から求める事は出來ない。皆內的作用で生殖腺の發達及び前章で說いた諸腺體の內分泌等に連關した有機的刺戟によるものである。斯くの如き刺戟は直接勃起を起さしめないで、兒童をして生殖器に觸れしむるものであるが、生後一才にして自瀆を强ふるが如き刺戟を生ずれば、其れは確かに病的現象である。

腦を去つた蛙は酸によつて刺戟された後脚を他の脚をもつて掻くものであるが、兒童が明白な自覺を有せずして、手又は其の他の物で外生殖

器其の他の痒い部分を掻くのは敢て不思議ではないのである。

其の際既に勃起しようとも結果は同一である。

兒童は恰も巧妙に痒い部分を掻く事を覺ゆる如く、又快感を感ずる如く、陰莖を掻く事を覺え、一種の快感を感ずるのである。以上は主に男兒に就て說明したが、女兒に於ても同樣である事は云ふまでもない。

兒童は斯くの如く生殖器に巧妙なる刺戟を加ふる事を自然的に知得する外に、他人に誘惑されてこれを知る場合が甚だ少くない。乳母、子守女等が兒童の外生殖器を撫で、泣き止ましめんとし、或ひは遊戲的にこれを弄ぶが如き事は吾人の目睹する處であるが、兒童は斯くの如き機會より一種の快感を覺え、不知不識自瀆的遂情を行ふやうになる。故に子を持つ親はこれ等の事に充分注意し、乳母や子守を監督しなければならぬ。

性的既熟の男女が性交を行ふ時は、必ず精液の射出を伴ふものであるが、兒童には斯うした現象は決してない。大低兒童期の最後に於て、男性が初めて射出するものである。併し此の事實は然く簡單に云ひ切つて了ふ譯には行かない。（茲に云ふ兒童期とは滿八才の初めより滿十七才までゝ、滿八才の初めより滿十四才の初めより滿十七才の終りまでを第二兒童期といふ。初生兒より滿七才の終りまでを乳兒期若しくは單に幼兒期と呼ぶ。）

既に述べた如く、精液の主なる成分は睾丸で作られるものであるが、若しフエルブリングルの云ふが如くんば、睾丸で製作されるのは精子のみである。然るにマンテガツツアの研究によると精子は十八才以前に生ずる事は稀れであり、フユルブリングルの研究によると十五才乃至十六才の男兒の射出物中には未だ精子を發見し得ないといふ。

併し又、フユルブリゲルは十二才乃至十三才の男兒の精液中に精子を發見した事もあつた。モールは兒童の遺精を幾度か研究して、十六才の男兒にも未だ精子の存在せざる事を發見した。ホフマンはこれに關し多少の材料を提供してゐる。彼れはクローセが主張した九才の男兒が女子を姙娠せしめ得るとの說には疑ひを挿んでゐるが、十四才の男子には斯くの如き現象のある事を承認した。ホフマンは尙亦發育の早い男兒（肉體上には男性的素質、大なる陰莖等）は生殖力も速かに發達するものである事を發見した。併しこれにも例外がある。何となれば十四才の虚弱な男兒の睾丸中に完全に發達した精子を發見してゐるからである。

又、十五才の男兒二人を實驗して、陰莖と共に凡て完全に發達せるにも拘はらず、一人は完全なる精子を有し、一人は全然精子を有さない事を發見した。更に陰毛を有さない十五才の男兒二名を研究したのに、既

に完全なる精子を有してゐた。然るに十八才の或る男兒に就て研究した時は全然精子を發見しなかつた。

ハペルダが研究した時も又これと同樣で、十五才並びに十七才の男兒にして陰毛を有しながら精子を發見しなかつた。然るに十三才四分の三に達した男兒を研究したのに、陰毛並びに精子共に完全に發達してゐた。ハペルダはこれによつて、精子は他の春機發動と同時に發生するものであると結論してゐる。

或る巴里の研究者と伯林の研究者とは、精子發生の最も早い時期は十三才と二分の一であると云つてゐる。

次いで起る疑問は、精子を發生しないのに射出を行ひ得るや否やの問題であるが、吾人は直ちに行ひ得ると答へる。吾人は既に精液は睾丸の分泌物のみならず、種々の腺より分泌される分泌液の混合したものであ

る事を逃べた。故に精子が未だ發生せずとも、他の腺よりの分泌物を射出する事は有り得べき現象である。從つて性交は生殖能力の發達するよりも以前に行ひ得るものである。

シユトラースマンは生殖能力の境界を滿十五才、性交能力の境界を滿十三才と認めたが、兒童が襯衣其の他の寢具に遺した汚點を檢査しても、決して精子を發見し得ないのに徴しても、兒童が精子を有せるは例外に屬する事が解る。

モールは七才の兒童が尿道の自瀆的刺戟に刺戟されて襯衣に精液を射出した事を發見したが、勿論精子は發見し得なかつた。斯くの如き年齢で精液を射出するのは確かに例外で、普通は十二才ぐらゐから始めるものである。又、或る敎育家は十才の兒童が木に登つた際突然滑り落ちて精液を射出して以來、幾度か此の方法によつて自瀆を行つた事をモール

に報告してゐる。

然らば此の精液は精子の發生する前に如何なる個所から生ずるものであらうか。精子の發生せざる前に睾丸に無力分泌物の生ずる事は有り得べき事の第一である。又多くの腺から種々の分泌物を分泌する事は既に說明した通りである。併し、何時頃からこれ等の腺が分泌し始めるかは明確に知る事が出來ない。

ヘレンは、コーペル氏腺が既に生後第一週間に分泌し始める事を確めた。其の說によると、此の腺は絶えず液を分泌するけれども、平常は其の腺内に保存せられて尿と共に排出されるのであるといふ。故にヘレンはコーペル氏腺を生殖器官中に數へない。併し此の腺の分泌物は精液の合成に必要なる事を發見してゐる。

次ぎにリットレッシエ氏腺も睾丸より前に分泌を開始するらしい。又

精嚢は精子の見　ない以前に分泌を開始する事が確實となつた。攝護腺に至つては性的に熟した時、或ひは其れよりも幾分遲れて分泌を開始するものである。フリッシュの調査した處によると、兒童時代に比較的小さい攝護腺は性的に熟するに至つて猛烈に發達を開始するものである。兒童時代には腺組織が非常に粗で粘着性を有するが、春機發動期に達すると完全なる發達をなすものである。エングリッシュが一千二百八十二回の實驗によつて得たる結果は、攝護腺の發達は睾丸が完全に發達した後に初めて發達するものである事を確めた。何れにしても攝護腺の分泌か比較的遲れて行はれる事は確實であるが、此の作用は二種に區別する事が出來る。

（一）調節的滴出運動によつて精液を射出する事。

（二）發育した人間に於て認め得べき快美外尿道漏（女子の場合には快美的粘液漏）

モールは兒童に快美外尿道漏の確證を實驗し得なかつたが、十二才の兒童にして既に精液を射出した事を發見した。勿論これは例外であつて、其の精液中に精子を含んでゐなかつた事は云ふまでもない。

女子のバルトリン氏腺は其の意味並びに發達上男子のコーペル氏腺に相當するものである。此の腺は性的未熟の女兒に既に分泌作用を行ふものである。性的未熟の女子が射出するに際し、他の腺の分泌物（子宮、子宮頸、膣、外陰唇及び尿道の粘膜腺等）がこれに關係を有する事は後に說明する。

射出は性交の際に於けるが如く、或る筋肉の調節的活動を要するものであるが、茲に生ずる一の疑問は、射出すべき液未だ生ぜざるに筋肉活

動が既に行はれ得るかといふ問題である。モールの觀察した處によると、次ぎの如く確言し得る。

或る場合には射出すべき液體が未だ發見されないのに、男女兩性共典型的な調節的運動を行ひ得る事がある。併しながら、吾人の眼に認め得べき分泌物が全然射出せられないかは又一つの疑問である。

抑も發育した人間が精液を射出する際に、調節的筋肉運動を行ふのは、或る分量の精液が尿道から摘出さるべき狀態になつた場合に起るもので あつて、其の際或る少量の精液は尿道の抵抗によつて尿道內に遺留し、尿の排泄と共に體外に排出されるものである。故に今若し斯くの如き經過を射出と名づけるならば、又射出と名づける事が出來る。何となれば、此の作用は所謂射出作用と同一であるからである。

次ぎに起る疑問は、兒童に於ける快美感覺である。快美感覺を明瞭に

認識する事は甚だ困難である。殊に兒童に於て更らに困難である　吾人はたゞ次ぎの如く說明し得るに過ぎない。

第一兒童期に於ても發育した人間に見るが如き快美感覺に刺戟さるゝが如く見ゆる事は確かな事實である。乳兒及び幼兒が身體を搖り動かすのは自瀆的行爲の證據であつて快感を感じつゝある現象であるといふ人があるが、吾人は此の說を信じない。何となれば、これは普通愉快なる感情の表現であつて、性的快美感覺とは全然別物であるからだ。

兒童が濕んだ眼を大きく見開き、大人に見るが如き性的亢奮の有らゆる擧動を外部に表現する時は、彼の快美感覺を感じつゝある事を知り得る。併し大人が射出と共に感ずる如き快美感覺の極に達しないのは云ふまでもない。勿論場合によつて乳兒ですら其の極に達する事があるのは、多くの學者の認める處で、殊に七八才の兒童には稀でないといふ。

快美感覺の極は龜頭、陰莖、陰核、小陰唇等外生殖器を刺戟して起る快感とは到底比較し得ないものである。併し年齢と共に此の快感も增加し、第二兒童期の終りには其の極に達する事は稀れでない。やがて其れがモールの前に說明して調節的筋肉運動と連結し、精液の分量が少い故に尿道外に滴出される事はないけれども、何れにしても或る分泌腺の精液を滴出するのであらう。併し、此の點は來だ充分確實でない。

併し、同一程度の快美感覺と、快美感覺の極に達し得る事は確實である。併しながら精液を體外に排出しないのであるから、大人が其の極に達した後滿足感情を得て、性的亢奮が休止するのと同一の結果に達するものか、或ひは自瀆によつて過度の刺戟を加へた爲め苦痛を感ずるかは明白に斷言出來ない。これを要するに吾人は快美感覺の極と其れに連關して生ずる滿足感情とは、勃起と同程度の快感を生殖器に感じてから後

に初めて起るものである事を斷言しようとするものである。

併し、快美感覺と其の極期とは、大人と兒童とによつて著しい差異のあるものである。其の說明は後にする。要するに勃起は第二兒童期の終る余程以前に起るものであつて、第一兒童期の初め又は其れよりも以前に起る場合も少くない。又、勃起は同程度の瘙痒感情に等しい快感を伴ふ事もある。併し快美感覺の極と射出とは後に至つて初めて起る現象であると斯ういふのである。

二　接觸作用の現象

今まで說明したのは外部生殖器であつて、主に收縮作用に就て述べたのであるが、以下性慾現象の第二類である接觸作用に就て說明する。

接觸作用も既に兒童時代に重大なる活動を爲すもので、大低收縮慾よ

りも前に現はれるものである。吾人は此の作用を説明するに先だち、マックス●デッソアーの性慾發達の三時期に就て説明する。(但しマック●デッソアーの説明は接觸慾のみに就てゝある。)

マックス●デッソアーによると、性慾の發達を三期に區別する事が出來る。第一期は最も初期の兒童時代即ち中性期で、此の時期には心理的性慾作用は起らないから、接觸作用を觀察する事は出來ない。

其の次ぎの時期がマックス●デッソアーの最も注意した必要な時期で無差別期といふ。無差別期とは其の名の示す如く、性慾の方向充分に差別的ならず、種々の方面に動搖し、面前にある外部の目的物によつて其の方向を變更するのである。從來此の時期の研究を怠つたが故に、性慾研究の全部の上に大なる障害を來たしたのであるが、此の時期の研究は性慾研究の基礎的意識を有する大切なる時期なのである。

此の時期に於ける兒童に同性愛を生ずるのは極めて普通の狀態で　或ひは友人を愛し或ひは敎師を愛する等の事があるが、後には皆普通の狀態に復するものである。非常に夫を愛する妻も、此の時期に限つて獨身の友人又は同性の女敎師を愛した事がある。而も此の時期に於て男女共に異性に對しても愛情を起し得る。そして其の愛情が同性的なるにせよ、異性的であるにせよ、續いて肉體上の活動を誘發せしむる事多く、其の現象は外生殖器に現はないで、接觸、抱擁、接吻等を行ふものである。

無差別期に次いで來る時期は所謂差別期で、普通の狀態に性慾の方向が異性に向けられる時である。此の時期は性慾が減退して全然消滅するまで繼續されるのである。

モールは『吾人は無差別期が如何なる人間にも來たると思ふ可らず、併し、勿論世人の想像以上に此の現象多くして、後に至れば普通の性慾

狀態に復歸する事は疑ふべくもない』と云つてゐる。

無差別期には同性的感覺のみならず、又他の惡傾向を有する性的感情の現はれる事がある。狂祟狂（フェティシスムス）殘忍性色情性（ザディイスムス）、被殘忍性色情狂（マゾヒスムス）等に類似した亢奮も種々の狀態に表はれ、動物に對する性慾などが現はれる場合がある。（これ等の病的性慾に就ては後章で別に說明する。）

其の他種々の混亂した觀念が連關して起る場合もある。例へば愛するものゝ唾液又は吐出物に觸れんとし、或ひはこれを食せんとする感情の如き。多く皆此の時期に起る現象であつて、而も大低成人後其の當時の事を記憶してゐないものである。

無產別期を重大な時期とするには尙一つの特別の理由がある。其れは從來小兒時代に惡癖的感情があると其れを生得的と見做してゐたけれども、無差別期の研究から推定すると、多く此の時期に一時的に現はれる

處の性的感情である事が解る。故に此の時期を經過し、差別期の普通狀態に這入れば、多く自然に消滅するものである。これ等の事を研究する上に於て、無差別期は最も重要なる時期に屬するのである。

無差別期の始まる年齡は一定しない。モールは五才にして此の時期の者を見た。併しモールはこれよりも前に始まり得ると云つてゐる。一般には九才乃至十才で、七八才ぐらゐで起る場合も少くない。勿論、モールの云つた如く、如何なる人間にも悉く此の時期が來るといふ譯ではない。此の時期に於て既に差別的性慾の現はれるものである。何れにしても普通は九才又は十才、時に八才ぐらゐから異性に對し愛情を生ずる事は確實である

無差別期の經續時間も一定してゐない。或る場合には廿才で終る事もあれば、其れよりも長く續く事もある。併し、大低は十五才乃至十七才

頃に差別期に入るものである。そして、大低の場合同時に兒童時代の惡癖も消滅するものである。

無差別的性慾の好適例として、ゲーテの小說「ウイルヘルム●マイステル●ワンデルヤーレ」の一節を紹介する。同書第二卷第十二章のウキルヘルムが最も幼時の物語である。

年長の子供は漁夫の息子で、年は余と左程違はなかつたが、何故とは知らず、初めて其の子供を見た時から、余の心は奪はれた。そして余は誘はるゝが儘に、少し離れた河へ行つた。

二人は木蔭に休んで、釣りを垂れ、互ひに凭れながら座つてゐた。彼れは釣りに倦きて、水中に突出した砂洲を指し示し、

『泳ぐのにいゝ時候だ』

と云ふが否や、直ちに其處に下り立ち、衣服を脫ぎ捨てた儘、水中

に飛び込んだ。彼れは水泳の名手であつたから、直ちに淺い場所を捨てゝ、水の深い余の前に泳いで來た。

周圍は非常に暑く、人は太陽よりも日蔭を慕ひ、日蔭よりも水に親しむ日であつた。余は子供に誘はれて、兩親の心配を胸に浮べながら、直ちに砂洲に飛び下りて着物を脫ぎ捨て、其の儘水中に飛び込んだが、身丈の立つ處で立ち止まつた。

彼れは再び其處らを泳ぎ廻つてゐたが、やがて日光の中に立つて身體を乾かした。余は其の時思ひもよらざる人體の美しさに驚かざるを得なかつた。彼れも又驚いて余の身體を見詰めた。二人は尙裸體の儘相對して立つた。二人の心は互ひ牽引を感じ、火の如き接吻の中に永久の友情を誓つた。

又、其の章の續きにウキルヘルムが其の少年と夕暮に森の隅で約束を

した後、自分よりも幼い小女と密會する處がある。

彼の女は金髪の心優しい美人であつた。二人は手を曳き合つて歩みながら、何物をも望まざるが如く思はれた。——程經て其の頃の事を思へば羨望の念に堪へない。——余は思はず友情と愛情との豫感に囚はれた。やがて心ならずも此の乙女と別れた時、余は此の心を若き友達に打ち明け、其の同情を得て新しき感情を樂しまうと思ひつゝ我が心を慰めた。

次ぎの例は無差別的性慾の實例をして、モールが或る人から供給されたものである。

目下卅四才の男。幸福なる結婚の下に數名の健全なる子供を得た。彼れ自身も普通の性慾を有せる健全なる男子で、肉體上並びに精神上に異常はない。其の無差別的性慾期に就て次ぎの如く物語つた。

余は九才の時或る田舍で家庭敎師に就て敎育を受けた。其の時其の家庭敎師に對して感情が起つた。敎師は親切な人であつたが、時には嚴格であつた。余は極力其の敎師の側にゐる事に勉め、其の敎師に手を握られると、非常に快感を覺えた。此の傾向は次第に增加して、彼れに抱かれる時彼れの身體から暖められるやうに感じた。彼れが抔で酒を飮んだ時、余は窃かにそこへ行つて彼れが唇を觸れた部分に自ら唇を觸れて樂しんだ。

斯くて余は十才の時都會に出で、ギムナジウムに這入つた。其の時余は余と同じく田舍から出て來た生徒と席を並べる事になつた。余は直ちに其の生徒に或る感情を起し、常に共に勉强せん事を希ひ、他の生徒と並んでゐる處を見た時不快の念が起つた。

入學後一年にして此の生徒は學校を去つた。余は其の時非常に不幸

を感じたが、間もなく其の友人の姉で當時十二才の乙女になつて心を慰めた。此の乙女と知つたのは、勿論其の友人と共に勉強したが爲めで、其の家庭で知り合ひになつたのである。

彼の女は美しかつた。余は時々其の家を訪れた。併し其の時の目的は他校に入學した友人の近狀を聞かんが爲めで、時には其の友人と會遇する事もあらうかといふ、不確實な感情からであつた。然るに次第に其小女に對する感情が高まつて行つて、日曜日に其の兩親から招かれるのを無上の樂しみとした。そして此の小女と同室する事は絶えず余の心を刺戟し、最初非常に不快に感じた小女の遊戲も好むやうになつた。

斯くの如くして十二才に達した時、余は又學校の非常に嚴格な或る敎師に對して感情を起した。其の時の感情は曾て家庭敎師に對して

起したのと同樣であつたが、家庭に於ける如く敎師に密接する機會がなかつたので、家庭敎師に對してしたやうな行爲は斷行し得なかつた。

敎師と少女とに對する感情は同樣に保續されたが、恰も其の時前の友人が休暇で歸省した。併し余も又同樣に歸省したので、長く彼れを見る事が出來なかつたが、彼れに對する感情は既に變化してゐた。余は又歸省中余の家庭を時々訪問する年長の從姉に對して感情を起した。

斯くて余は次第に成長して春機發動期に達したが、爾來友人の姉を想ふか、或ひは何等性慾的の意味無くとも姉が余に觸るゝ事がある と、直ちに勃起を感じた。此の時も尙敎師に對して一種の感情があつて時々勃起を感じた。次いで余は自瀆を行ふやうになつた。併し

これは決して友人の誘惑ではなかつた。勿論其の談話が生徒間に行はれた事はあつた。

此の時尚姉と教師とに對する感情は殘つてゐたが、次いで又女性の如き外觀を有せる同級生に感情を起した。併し精液を射出するやうになると、男性に對する感情は次第に消え、十六才にして町を去る時は全く婦人に對する感情のみ起るやうになつた。

次ぎは卅才の男である。病的の部分は更に無い。

余は性慾的と稱すべき感情は、田舍で初めて經驗したやうに記憶してゐる。余は元來町に住んでゐたのであるが、休暇に田舍へ行つて、牧師の家を間借した。余は日々遊び廻つて特に動物を愛した。山羊犬馬と順次に牽きつけられて行く有樣は、自分乍ら殆ど理解し得なかつた。

余は其の時生殖器に何の感覺も感じなかつたが、やはり一種の性慾であつたやうに思ふ。余は動物を捉へたのみならず、これを抱き、これに接吻した。そして動物の温度及び一種の動物臭を嗅ぐ事を一つの愉快とした。田舍を去るに及んで此の感情は次第に消滅した。

續いて余は一人の學友に感情を起した。そして其れは可成長く續いた。余が其の學友に對して起した感情はたゞ無限の感情的戀愛といふより他に云ひ表はすべき言葉が無い。成績の都合上余が彼れの後に座する時は非常に不幸を感じたが、左右に並ぶ時は再び彼れが余の前に來らざらんが爲めに、知りながら質問に答へなかつた事がある。此の關係は數年續いたが、やがて春機發動期に達するに至つて、此の傾向は次第に變じて、遂に舞踏を學べる一人の小女を愛するに至つた。

小女は其の時十四才で、余の感情は尚兩者の間を動搖しつゝあつた
と云へる。此の男性と女性とに對する感情の動搖は、其の翌年にな
つて次第に反比例に進み、女性に對する感情は次第に强まつて行つ
たが、此の小女に對する感情は又或る他の女性に對する感情の爲め
に、余の興味界から押し出された。そして同性的傾向は全く消滅し
た。尤も其の後二十才に達するまで女性の如き外觀を有せる男子に
は多少興味を感じないでは無かつたが、其れも次第に消え失せ、完
全なる兩性愛に這入つた。

次ぎは廿六才の婦人である。此の婦人は八才より十五才まで小學校に
通ひ、二三科目獨習した上學校の寄宿舍に這入つた。

最初のうちは學友に對して純潔なる友情を感じたのみで、互ひに接
吻した事はあるが　其れ以上の親しい接觸はしなかつた。私は其の

當時接吻に友情以上の感情を感じた事もなく、何等戀愛の意味をも
感じなかつた。斯うした狀態は私が十才の時、當時住んでゐた或る
中都會へ美人の女優が來た事によつて遂に破壞さるゝに至つた。此
の女優の寫眞は至る處の店頭に掲げられて、其の都會の評判となつ
たが、左程妙技も無かつたので其の評判も直ちに消滅した。併し私
は絶えず其の女優を慕つた。

然るに此の女優が去つてから、大なる金毛の髯を有する如何にも男
らしい男敎師が其れに變つた。此の敎師は生徒全部の憧憬の中心と
なつてゐたが、私は學校を卒業するまで其の狀態を繼續した。其の
後多少年齡が長じ、寄宿舍に這入つてから、ゲーテの「フアウスト」
劇を見物したが、其の時のグレートフエンに扮した女優に深い印象
を與へられた。私は其の女優に紹介されて、スケツチブックに二行

の實筆を乞ひ得て無上の幸福を感じ、爾來寄宿の監督が觀劇を許してくれると、全身に戰慄を覺える程嬉しかつた。

此の狀態は寄宿してゐる間繼續したが、結婚年齡に達して私を愛せる或る紳士に求められ、兩親の同意を得て結婚した後は、女優に對する感情は次第に消滅した。私は今も尙其の女優に對して多大の敬意と感謝の情を有するけれども、戀愛的の感情は全然其の跡を止めない、私は左程劇しくはないが、兎に角我が夫を愛してゐる。そして夫との性交は全く普通の狀態であるにも關はらず、彼の女優其の他の婦人とは接觸を欲しながら、性慾的思想の缺陷せる爲め遂に其れを實行し得なかつたのであらうか。——

以上、讀者は大體無差別期の性慾狀態について知らるゝ處があつたらう。更らに進んで兒童性慾の一般的現象を說明しよう。

ザンフォルドベルは二才にして既に心理性慾的現象の存在する多くの例を示してゐる。併し彼れは愛着感情の性慾的根底を充分に證明する多くの實例を示し得なかつた。併しながら兒童が成長するに從ひ性慾的現象が次第に多く表はれる事は確かなる事實である。

兒童に於ては性慾的現象の境界が他の場合に於るよりも不明瞭であるが、吾人の觀察する處によると、八才に達すれば接觸的現象は曾だに病理的ならざるのみならず、異常的と稱し得ざる程度に屢々來るものである。そして漸次成長するに從ひ、接觸的現象と共に收縮作用の現象が混合して表はれて來るのである。

併し、接觸作用は少年期の最初の第一年に於て起る事がある。其の際生殖器に何等の自覺作用の無い事は云ふまでもない。吾人は大抵の場合性慾的接觸より遠く離れた初期の戀愛の實例を見聞した事が多い。

愛着の目的は一樣でない。大抵は男兒が同年輩の女兒に牽引されるもので、時には著しく年長の婦人に惹き附けられる場合もある。又、學校敎師、家庭敎師などに牽引を感ずる例も少くない。

女兒も又同樣で、寄宿舍などで見る如く、同年輩の同性に愛着するものが多い。所謂「須磨の浦」などが此の例である。（一說に「須磨の浦」とは同性愛の意味ではなく、讀んで字の如く自瀆的行爲の事だといふが、吾人が或る女學生に訊した處では矢張り同性愛の意味ださうである。）又兄或ひは弟の友人が其の目的となる場合もある。敎師若しくは女敎師等非常に年長者である事も尠くない。女優、音樂家、畫家、文藝家の如く藝術上に聲名を馳せる男女が目的物となる場合もある。大抵の場合は容貌が重要の意味を有するものであるが、女兒によつては全然外貌とは無關係の場合もある。

併し、大抵は容貌が重要なる役目をなすもので、美人美男子を好むのは兩性共に同樣である。又兒童にして兩親に愛着する者も絶對にないとは云へない。男兒にして母の寢所に入るを好むのは既に一種の性的感情を有するのである。斯くの如き性的傾向と子供の愛とも云ふべき交感的感情とに就ては後で述べる。

兄弟姉妹の間に於て最初の性慾的傾向を示した例の少いのは著しい異現象である。モールは多少同性愛的及び同性愛的性質を有する實例を見たと云つてゐる。此の際勿論何等性慾的傾向を有せずして、たゞ淫猥なる言語又は行爲或ひは單なる好奇心より多少其れに似た現象を呈する場合があつても、其れとこれとを混同してはならない。

斯くの如き場合には性慾的交感性を缺いてゐるものであつて、從つて全然心理的要素を認むるを得ない。又、兒童の時より人間に植えつけら

れた因襲的要素が大なる權威を示し、血族淫を避けんとする傾向を明白に表現するものである。

互ひに愛するものは愛着の目的物を小説的に彩色せんとするものであつて、著しい想像力を要するものであるから、此の際想像を自由にめぐらし得るだけの年齢を要する事は云ふまでもない。兒童がお伽噺を好む事は此の時の材料を提供する爲めに甚だ必要な事である。此の小説化的傾向は又年齢の長ずるに從ひ發達し、啻だに兒童時代のみならず、少年時代に達しても發達を連續するものである。

兒童の愛する女は可なり位置の高い女でなければならない。男兒は無差別的性慾の時代にも階級の高い男性を好むものであるが、此の現象は又女兒に於ても同樣である。即ち種々の想像を附加し、自分の愛する男兒を高尙にせんとするものである。故に戀愛は大抵望みを達し得べき物

を目的物とはしない。從つて其れが性慾的戀愛であるか、將た又他の感情的刺戟によるものか、明瞭に理解する事が出來ない。

兒童が戀愛に陷ると大人の如く嘘言を吐き、愛する女性の缺點は却つて美點となり、可なり女性の缺點を許さんとするものである。若し嘘言者の女と愛し合ふ時は、性慾的の原因を知らないが故に、女兒の有する種々の特徴を擧げて其の短所を補はんとし、嘘言は怜悧とし、虚榮は清楚とし、其の缺點は悉く美點となつて眼に映じ、多くは斯くして其の女兒に對する心情を友情と思惟するに至るものである。又或る時は性慾的傾向が敎育的動機となり、互ひに愛する者の惡癖を矯正せんとする。此の現象は又同性愛の場合に於ても現はれるものである。

兒童の愛着は種々の狀態で外面に現はれる。戀人を見んとし、或ひは其れと同座せんとし、それに觸れんとし、或ひはそれに接吻せんとする。

兒童はこれ等の機會を捕へんが爲めに女兒の遊戯に加入せんとする。

八才の娘を有せる母親の觀察によると、その娘は遊戯の際に二才上の男兒と抱擁して、或る程度まで熱心に接吻し、男兒は其の時愛情を質素に顔面に表はして、『僕はお前を何れ程愛してゐるかお前は知るまい。僕はお前をひどく愛してゐるのだ』と云つたといふ。

又、兒童は大人に對して斯くの如き行爲を強ふる事がある。一人前の婦人が八九才の男兒に絶えず身體を押しつけられてゐながら、その行爲に性的意義の潜んでゐるのを少しも氣附かずにゐる事は、吾人の時々目睹する處である。

接觸は兒童の愛の前提であるが、又他の形に表はれる場合がある。例へば戀人を見る事、戀人の寫眞を見る事等が即ち其の例である。彼の格鬪（取組合）の如きも其の一例で、兒童と兒童とが接觸せんとする一種

の性的欲求に外ならない。ベルの説によると、此の格鬪が男兒と女兒との間に行はれるのは密接なる接觸を達するが爲めで、互ひに一方を差し上げるのは卽ち此の目的を達せんが爲めである。又女兒が愛せらるゝ男兒に打ち勝たるゝ事を欲するのも一つの性的現象であり、同時に又殘忍性色情をも含んでゐるのであると云つてゐる。

兒童の戀愛は劇しくなるに從つて、その擧動が次第に狂的となるものである。何事も戀人の眞似をしようとし、或ひは戀人の衣服を眞似、或ひは步み振りを眞似る等、見るに堪へない擧動をするものである。

戀人と同座すると兒童の氣分は一變して、一擧一動何となく調子づき、戀人が去らんとすると非常に悲しげな表情をするものである。又種々の偶像的崇拜も兒童時代に存在するもので、戀人の所有物に接吻して喜び、戀人の手に觸れたものを神聖視する等の事は屢々吾人の見る處である。

嫉妬の感情の存在する事も同樣である。兒童はその愛する兒童が他人と遊ぶ時は甚だしく嫉妬するものである。自分の愛してゐる女敎師が他の女生徒に優しくした爲め、終夜睡らないで小さい胸を痛めるなどは屢々吾人の見聞する處である。全體から見ると、年長者に對する嫉妬は、同年輩の兒童に對する嫉妬よりも大きいやうである。

艷書も兒童時代に既に相當の役目をするものである。併しその內容は大抵不調和で性的特徵を想像する事が出來ない。談話する時は左程滑稽でもないのに、艷書を書くと言語不統一で甚だしく滑稽に陷るものが多い。

戀愛の附帶現象卽ち戀愛の目的物に氣に入られようとし、喜ばせようとする事は、肉體的行爲によると、精神的意志によるとを問はず、既に其の第一步に於て現はれるものである。或る敎師に戀した生徒があつた

が、其の時程敎師に從順な時は無かつたといふ。モールの示した例に、ある一人の女兒が入學當時は怠惰で學業が常に進步しなかつたが、或る女敎師を愛するに至つて、俄かに勉强を始め頓みに成績が上つたといふ。これは女敎師が他の生徒を愛するであらう嫉妬と、その女敎師を喜ばせその心を奪はうとした爲めである。

兒童の擧動で理解し難い事は、此の方面から考へると容易に理解する事が出來る。男兒が女兒に氣に入られようとする時は、體操とか角力とか競走とか凡て體力上の印象を與へんとし、女兒は裝飾とか化粧とか嬌羞とかによつて男兒に氣に入られようとする。

兒童が早く大人たらん事を希ひ、小供たる事を恥づる時には虛榮心が著るしく發達するものである。戀の目的たる年長の女性に子供扱ひにせられると、著しく自尊心を害し、自棄な氣持になるものである。ゲーテは

十五才にして斯くの如き經驗をしてゐる。

彼れデロネスは余等より二三才年上の姉に余を紹介した。其の姉は愉快なる乙女で、身體は規律的に發達し、顏は赤く、髮は黑く、そして眼の凉しい美人であつた。全體の樣子は幾分打ち沈んで悲し氣であつた。

余は全力を擧げて其の機嫌をとらうとしたが、遂に其の注意を向けしめ得なかつた。若き乙女は自分より年下の男よりも凡てが進んでゐるが故に、斯うして最初の愛着を向けた男に、まるで伯母の樣な態度を示した。

羞恥の感情も既に兒童時代に現はれるものである。エリスも其の他の性慾學者も皆これを承認してゐる。併し世人は往々羞恥と臆病とを混同してゐる。人さへ見れば顏を赤くして逃げ出すが如きは多く臆病であつ

て羞恥ではない。併し、此の間の差別は非常に困難である。

何れにしても、羞恥心は模倣と敎育とによつて、兒童時代からこれを有する事は爭はれぬ事實である。少くとも第二兒童期に達した男兒及び女兒が、他人殊に異性の前で顏を赫むる事は何人も認める處である。別して同性愛に陷れる兒童が、同性の面前では顏を赫めながら、異性の面前では平然としてゐるなどは面白い現象である。

ベルは羞恥心は女兒の方が早く發生するが、兒童としては男兒よりも侵略的であると云つてゐる。兒童時代の兩性の間に然うした區別があらうとは心附かなつたが、唯だ第二兒童期の終りに於て、男兒が寧ろ女兒よりも受動的である場合は確かにある。勿論女兒が戀愛に陷つた時は發育した女性よりも遙かに大膽である。併し、兩性の典型的區別は大抵後に至つて生ずるもので、女兒に羞恥感情が多少缺陷してゐると云つても、

其れは成人した女性と比較しての事で、男兒と比較して云ひ得ることではないのである。

ベルは又或る年齡卽ち八歲より十二歲に至るまでは、戀愛の表現が其の前後より少いと云つてゐる。これは兒童は此の時代に特に自己の愛着心を戀人のみならず、他人の前に隱さうとするが故に、其の現象を觀察する事が困難なのである。故に區別は唯だ秘[illegible]するといふだけの事である。

又、男兒が女兒よりも二三年發達の遲れる時期がある。此の時代には特に亂暴な惡戲を好むものであるが、これは自然が性的嫌惡の情を起さしめて、性慾發生の際に一時危險を防止せんとする一定の目的から生じた現象である。併し此の結果は男兒は女兒を嫌ふ爲め、異性愛の代りに無差別性慾のみ自然的傾向が現れ易いものであるから、吾人は此の自然

の調節を餘り過重してはならないのである。

愛着の方法は兒童に於ては全く不定で、或ひは小說的となり、或ひは肉的となるものである。從つて愛着の目的物も絕えず變更され、或ひは父の友人を愛し、或ひは兄弟の友人を愛し、或ひは名聲高き社會人を愛する。

一般に無差別期に達しない時、自身の成長と共に次第に年長者を愛する事は何人も認むる處である。モールはこれに就て、兒童時代を包含する比較的少い年限には、勿論數學的に確定し得られないが、多くの兩性の兒童に質問して此の證據——年長者を愛する傾向——のを得たと云つてゐる。

兒童時代に始まつた愛着が次第に發達して、遂に結婚にまで達する事は多くある例である。大都市に於ては斯くの如き現象は少いが、小都市

殊に地方には其れが多い。今假りに二人の男女兒童が共に成長したとする。彼れ等の性慾的感覺の自覺に就ては未だ何人も認めないのに、既に兩者は互ひに相愛する仲となつて、其の後彼れ等に性慾的自覺が生じたならば何時しか性交を結ぶに至るであらう。都會に於ては賣淫婦が流行するが故に性慾に熟した少年は此の方面に走るのと、今一つは人目の多いといふ周圍の關係から性交を結ぶ事は比較的少いが、地方に於ては斯うした機關が少く、且つ周圍が性交を結ぶに鄕合のいゝ爲めに、自然結婚前の性交が結ばれ、從つて結婚關係を生ずる事が多いのである。

大體に於て兒童の愛着は餘り連續しないのを常とする。たとひ其の初めに精神上の苦痛を被る事があつても、比較的早く此の苦痛に打ち克つて分離するものである。戀人が死んだ時も同樣で、左程悲哀を感じないものである。大抵は愛情も比較的早く消滅し、死或ひは其の他の理由に

よつて別離する事があつても、存外平氣で、新らしい愛着が古い愛着に代つて直ちに其の後を襲ふものである。併し勿論或る場合には愛人の死或ひは別離の爲めに、自殺又は精神上の疾病を誘發する事も無いではない。

三　兩作用連結の現象

今までは收縮作用と接觸作用とを互ひに分離して說明した。併し此の兩作用が互ひに連結して居る場合も少くない。或る時には一方の作用のみあつて一方の作用が缺陷し、或る時は兩作用が完全に連合して働く事があるのである。收縮現象のみ起るか、或ひは接觸現象のみ起る場合は前者の例で、後者の例には次ぎのやうな實例がある。

これは三歲の頃殆ど同年の娘（甥の娘）と遊んだ人の事である。二

人は仲よく夫婦遊びをして樂しんだ。彼れは絶えず其の事を考へてゐたが、夜身を床上に横たへる時勃起を起して必ず快感を伴つた。彼れは睡りながら、或る人間が彼れの床に横はつて彼れに觸るゝが如き夢を見た。其の夢には又彼の遊戲仲間も現はれた。彼れは度々此の夢を繰り返したが、彼れの頭腦は更らに劇しく此の女兒の事を考へるやうになつた。後に至つて遂に愛着となり、十七歲にして女兒に其の心を打ち開け、互ひに婚約を結んだが、男は精神病に罹つた。

次ぎは收縮作用が接觸慾の目的物と連結せずして、兩作用の成立する場合である。卽ち兒童が既に生殖器に性慾感覺を感じて、自瀆的遂情を行ひながら、其の愛する女を考へる事も、同席する事も、抱擁する事も欲求しない場合である。

接觸慾が收縮現象を發生せしむる程に此の兩作用が密接の關係を有するとせば、互ひに愛着の感が交換せられる時に、兩者の間に性慾的行爲の生ずるは甚だ容易な事である。兒童の性慾行爲は大抵斯くの如くして成立するものであつて、大抵同衾して陰莖を勃起せしめ得るも射精しない事は多くの實例の示す處である。モールは次ぎのやうな例を示してゐる。

二十一歲の男、健全なる、少くとも左程墮落せざる家庭に育つた。五六歲の頃第一の性慾感覺を知つた。彼れの目的者は女中で、常に彼れを愛し、彼れの生殖器を自身の身體に押し當てたのに歸因する。其の後九歲にして彼れは同年の小女を愛し性慾的行爲を行つた。其の時既に勃起して快美感覺を感じたが射精はしなかつた。

彼れは長く斯くの如き關係を續けたが、宗敎を信ずるに至つて其の

不正を知り、斷然關係を絶つて遂に十九歳まで眞面目な生活を續けた。其の間同衾は勿論自瀆も行はなかつたが、十九歳に至つて欲求に打ち克つを得ず、自瀆を始めて今日に至つた。其の度數は大抵毎週二三回又は四回で、三ケ月休止した事が一度あつたのみで、他は絶えずこれを繼續した。

彼れは賣淫者を嫌ひ、精神的に發達した女を好み、接吻又は抱擁を欲する事は可成劇しかつたが、同衾慾は無かつた。自瀆は常に物理的で目的者を想像する事は無かつた。

同衾慾に於て觀察せらるゝが如き、收縮作用と接觸作用との完全なる連結は後に至つて初めて現はるゝ場合が多い。斯くの如き事は、接觸慾に存在せる肉慾的要素が明かに以前より認めらるゝ場合に限るものである。

接觸慾は兒童が純精神的戀愛を女子に對して感ずる場合のみならず、寧ろ女子に對して、肉體性的特徴に刺戟さるゝ場合に成立するものである。故に斯くの如き男兒が女子の胸を見る時は激しい刺戟を感ずるものであつて、又男兒が女兒と自己の生殖器との關係を知らないのに、女兒の生殖器を見て刺戟さるゝが如き例は甚だ少くない。これと反對に女兒が男兒の生殖器によつて刺戟される例も少くない。

斯くの如き場合には、次第に收縮作用と接觸作用とが完全に融合するものであつて、男兒が其の愛する婦人に身體を押し附けて、勃起のみならず射精を起して自ら驚愕する場合が少くない。此の際慾望の起る事は大人よりも甚だしく不定で、大抵は想像によつて不確かなる心像を描き、其れに對する憧憬の感情から同衾に於ける性交慾が發達するのである。

吾人は上記の兩作用が、兒童に於ては少くとも自覺的感情として現は

る、事を述べたが、大抵の場合には接觸作用が先づ自覺される事が多い。八十六人の普通の異性愛をした男を研究して見たのに、其の中の百分の七十五以上は先づ接觸感情を有し次いで、生殖器に自覺作用を生じたものであつた。これ實に收縮作用を本來的なりとする從來の說を根底から破壞するものである。

下等生物の繁殖は分裂又は發芽によつて行はれるものであつて、其の際必ずしも第二の個體を要さない。此の發芽は卽ち男子の收縮作用射出に相當するものである。併しながら、大抵の場合收縮作用が第二の自覺に上るとも、個人の發達に於ては此の作用が第二に發達するものと云ふを得ない。

接觸慾先づ覺醒して、收縮作用が次いで起る模範的の例として、左に一つの實例を擧げる。

三十二歲の男、其の體質は神經衰弱症に罹り易いが、他に病的現象は無い。

余は七歲にして男女混合で敎育する私立小學校へ這入つた。從つて遊戲の際も男女共に混合して遊んだので、余は直ちに一女兒と親しくなつて、常に勉强をも共にした。斯くて余は九歲に達して男生徒のみの學校に入學したが、其の女兒との交際は依然繼續した。余の兩親も其の女兒を愛し、共に海水浴などに伴なうやうになつた。

余は何故に此の女兒を愛したか、其の理由を知らない。大方其の明るい碧眼、僞らざる性質、豊かなる金髮等によるのであつたらうか、余は確かに然りに答へる事が出來ない。併し此の女兒は他の男兒からも熱望されてゐた事は事實である。彼の女はこれ等の男兒とも遊ぶ事を好んだが、彼の女と彼の女の兩親とは其れ等の男兒より遙か

に余を愛した事も事實である。余等二人は決して不利に陷る事なく、寢に就く時も余は必ず彼の女の幸福を祈つた。

斯くて二人の愛着は互ひに交換せられ、二人は將來の結婚を物語つて樂しんだ。又或る時は結婚式を如何に行ふべきかなどゝ色々に考へて樂しんだ事もある。余は他の人には秘密にした事までも彼の女には隱した事なく、遊戲中彼の女を見失つて非常に腹立たしく思つた事もあつた。これを要するに余はこれ程女性を愛した事は前後に一度も無かつたのである。

併し男子ばかりの學校へ這入つてからは、屢ば逢ふ事が出來なくなつたので、此の女兒を思ふ事も次第に少なくなつた。さりとて他の女兒や男兒を愛した事も無かつた。其の後夢に男兒を思ふ事があつても性慾的色彩を帶びた事は無かつた。余は唯だ交感的男兒を心像

に描いたのみで、生殖器の昂奮及は性慾的現象の起つた事は一度も無かつた。

十四歳に達した時、余の兩親は余と此の女兒とを伴なつて海水浴に行つた。其の時余は又海濱で此の女兒と遊ぶ事を好んだ。勿論其の以前既に相抱擁した事もあり、最も親密なる感情に囚はれた時は接吻した事もあつた。然るに今二人が互ひに砂上に輪になつて遊びながら抱擁したのに明かに勃起を覺えた。其の時非常に愉快ではあつたが、快美感覺又は滿足感情は缺けてゐたやうに思ふ。併し爾來余は彼の女と抱擁せんとする希望が次第に增加し、其れを思ふ情も益々募つて來たが、離れる時を怖れて想像する事すらも避けようとした。其の時又結婚に就て物語つた事は云ふまでもない。やがて二人は兩親と共に町に歸り、其の冬は又前の冬の如く時々相會した事は